〈資料編〉第1章 G7茨城·つくば 科学技術大臣会合の開催

一会合日程

5月15日(日)

到着

参照 概要編 P 16

各国・機関代表者到着日一覧

各国・機関	代表者	到着日	到着場所
日本	島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)	5月14日(土)	オークラフロンティアホテルつくば エポカル
イタリア	ステファニア・ジャンニーニ 教育・大学・研究大臣	5月15日(日)	ホテルグランド東雲
カナダ	カースティ・ダンカン 科学大臣	5月14日(土)	オークラフロンティアホテルつくば 本館
フランス	ナジャット・ヴァロー=ベルカセム 国民教育・高等教育・研究大臣	5月15日(日)	オークラフロンティアホテルつくば 本館
アメリカ	ジョー・ハンデルスマン 科学技術政策局科学担当次長	5月15日(日)	つくば国際会議場
イギリス	マーク・ウォルポート 主席科学顧問	5月16日(月)	オークラフロンティアホテルつくば 本館
ドイツ	ヨハンナ・ヴァンカ 教育研究大臣	5月15日(日)	オークラフロンティアホテルつくば エポカル
EU	カルロス・モエダス 研究・科学・イノベーション担当欧州 委員	5月15日(日)	ホテルグランド東雲

※イギリスはクレア・ダーキン局長が代理として、5月15日(日)から参加

2 ウェルカムランチ

参照 概要編 P 17

- (1)**実施主体:**内閣府
- (2) 日時: 平成28年5月15日(日)12:00~13:00
- (3)場所:つくば国際会議場 レストラン「エスポワール」
- (4)参加者:
 - ①各国・機関代表者

島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

イギリス クレア・ダーキン ビジネス・イノベーション・技能省 グローバル科学・イ ノベーション・教育 担当局長

②記念シンポジウム ゲストスピーカー及びパネリスト

江崎 玲於奈 つくば国際会議場 館長 (ノーベル物理学賞受賞者)

小林 誠 (共) 高エネルギー加速器研究機構 特別栄誉教授

山海 嘉之 (大) 筑波大学教授/サイバニクス研究センター長

CYBERDYNE (株) 社長/CEO

内閣府ІmРАСТプログラムマネージャー

原山 優子 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員

元(大)東北大学大学院工学研究科教授

小谷 元子 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員

(大) 東北大学原子分子材料科学高等研究機構長兼大学院理学研究科数学専攻教授

村山 斉 (大) 東京大学数物連携宇宙研究機構長、特任教授

柳沢 正史 (大) 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構教授

伊丹 健一郎 (大) 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長、教授 ジョナサン・ドーファン (学)沖縄科学技術大学院大学学長兼理事長

③その他

高級実務者等 13名 各国・機関随行者 12名

(5) メニュー:

- ・つくばの小麦(ユメシホウ)を使ったミックスサンド・野菜サンド
- ・奥久慈卵の厚焼き玉子 花れんこん添え
- ・茨城県産フルーツトマトとモツァレラチーズのカプレーゼ
- ・土浦市水耕栽培野菜のサラダ
- ・舌平目の米粉焼き 県産トマトを使ったソース
- ・筑波ハムの手作りソーセージ
- ・常陸牛のローストビーフ 季節の野菜を添えて
- ・土浦レンコンうどん
- ・茨城産コシヒカリと茨城産野菜のベジタブルカレー
- ・季節のフルーツ
- ・鉾田市深作農園のバームクーヘンと各種デザート
- ・屋形船盛り
- ・真鯛の姿焼き/タラバガニ/伊勢海老
- ・霞ヶ浦産ワカサギのフライ
- ・ 茨城県産野菜の天ぷら (レンコン/サツマイモ/ピーマン/ナス/キノコ)

(6)運営体制:

業務内容	所属	人数	業務内容詳細
■全体統括	内閣府	2名	 ○
■ 土 仲 似 行	協議会	3名	
■制作·運営管理	JTB	1名	○手配、調整、アテンド
	内閣府	4名	○会場内でのアテンド
■来賓対応	協議会	2名	○主催、来賓出席者対応
	JTB	1名	○概要説明、アテンド業務
■手配、管理	JTB	1名	○会場調整、メニュー手配等
■警護関連	茨城県警察	適宜	○会場内の要人警護
■記録(スチール)	JTB	1名	○記録スチールの撮影
■会場運営手配·管理	つくば国際会議場 レストラン「エスポ ワール」	適宜	○会場手配、飲食物手配、配膳業務等

3 G 7 開催記念シンポジウム

参照 概要編 P 18

- (1)実施主体:内閣府、茨城県、つくば市、協議会
- (2) 日時: 平成28年5月15日(日)13:30~17:30
- (3)場所:つくば国際会議場 大ホール
- (4)参加者:
 - ①各国・機関代表者及び登壇者

プログラム参照

②その他

各国・機関随行者 20名 一般来場者·招待者 464名 高校生 234名 中学生 126名

(5)プログラム:

①第1部 歓迎セレモニー (開会あいさつ)

島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

茨城県知事(G7茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会 会長) 市原 健一 つくば市長(G7茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会 副会長)

②第2部 シンポジウム

テーマ 科学技術の未来を語る

オープニングスピーチ 「Running beyond the Frontiers」

江崎 玲於奈 つくば国際会議場 館長 (ノーベル物理学賞受賞者)

基調講演① Role of basic research in the development of science and technology

> 小林 誠 (共) 高エネルギー加速器研究機構 特別栄誉教授 (ノーベル物理 学賞受賞者)

基調講演② The future society with robot suit HAL®

山海 嘉之 (大) 筑波大学教授/サイバニクス研究センター長

CYBERDYNE (株) 社長/CEO

内閣府ImPACTプログラムマネージャー

各国大臣スピーチ

島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策) 日本

ヨハンナ・ヴァンカ 教育研究大臣 ドイツ

カナダ カースティ・ダンカン 科学大臣

イギリス クレア・ダーキン ビジネス・イノベーション・技能省 グロー

[ビデオメッセージ]

フランス ナジャット・ヴァロー=ベルカセム 国民教育・高等教育・研究

大臣

バル 科学・イノベーション・教育 担当局長

アメリカ ジョー・ハンデルスマン 科学技術政策局科学担当次長

ハイスクール科学技術サミット提言書提出

ハイスクール科学技術サミットに参加した高校生8名、留学生3名

パネルディスカッション

テーマ 国際的に開かれた研究組織 科学技術にブレークスルーをもたらす ~次世代を担う若者に向けて~

モデレーター 原山 優子 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員

元(大)東北大学大学院工学研究科教授

パネリスト 小谷 元子 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員

(大) 東北大学原子分子材料科学高等研究機構長

兼大学院理学研究科数学専攻教授

村山 斉 (大) 東京大学数物連携宇宙研究機構長、特任教授

柳沢 正史 (大) 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構教授

伊丹 健一郎 (大) 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 拠点長、教授

ジョナサン・ドーファン (学) 沖縄科学技術大学院大学学長兼理事長

クロージングスピーチ

島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

(6)運営体制

業務内容	所属	人数	業務内容詳細		
■会体统任	内閣府	2名	○ ◆ 休 判 <i>佐</i> · 宇 佐 笠 珊		
■全体統括	協議会	2名	- 〇全体制作・実施管理 		
■制作·運営管理	JTB	2名	○全体構成・演出・制作管理		
	内閣府	4名	○会場内でのアテンド		
■来賓·登壇者対応	協議会	4名	○主催、来賓出席者対応		
	JTB	1名	○控室対応		
	内閣府	1名			
■メディア対応	協議会	8名	○メディアへの事前説明とアテンド		
	JTB	1名			
■交通手配、管理	JTB	6名	○移動車両の配車・運行管理		
■警護関連	茨城県警察	適宜	○会場内・外の要人警護		
■警備関連	JTB	63名	○会場內警備、金属探知機手配·運営		
■進行·運営業務	JTB	2 4 名	○進行業務、司会·通訳、会場内来場者誘導等		
■テクニカル	つくば国際会議場	適宜	○会場管理、映像、音響、照明機材対応		
■受付業務	JTB	19名	○受付·ID のお渡し 等		
■記録(動画・スチール)	JTB	8名	○記録動画、スチールの撮影		
■ケータリング	協議会	3名	○叔今 ドリンク笠の手間		
■ 9 - 9 9 2 2	JTB	1名	- ○軽食、ドリンク等の手配 		
■会場運営手配·管理	つくば国際会議場	1名	○備品什器類の手配確認、会場管理		

(7)シンポジウム配布資料

準備主体	タイトル
協議会	G7茨城・つくば科学技術大臣会合開催記念シンポジウムプログラム
協議会	G 7 茨城・つくば科学技術大臣会合特別展プログラム
協議会	いきいき茨城ゆめ国体2019チラシ
協議会	第17回世界湖沼会議チラシ
協議会	KENPOKU ART2016リーフレット
協議会	The Japan News by The Yomiuri Shinbun(発行日:平成28年5月15日(日))
協議会	日本民営鉄道協会観光案内マップ
協議会	IBARAKI AIRPORTボールペン
協議会	G7茨城・つくば科学技術大臣会合のロゴを配した付箋
つくば国際会議場	Running beyond the Frontiers 江崎玲於奈館長資料

※なお開催場所のつくば国際会議場大ホール前に、茨城県及びつくば市の観光PRポスター、県 北芸術祭PRポスターを一面に掲出した。

(8) 中高生を含む一般来場者・招待者の来場方法

- ①公共交通機関を利用
- ②シャトルバスを利用
 - ·つくば市役所⇔竹園二丁目南バス停 (つくば市役所来庁用駐車場を無料解放)
 - ・ホテルグランド東雲⇔竹園二丁目南バス停 (歓迎レセプションに参加する来場者はホテルグランド東雲からの乗車)
 - ・土浦駅東□⇔竹園二丁目南バス停

※なお、竹園二丁目南バス停を使用するにあたり以下の申請を行った。

提出先: 茨城県土浦土木事務所 提出書類:道路敷一時使用届

資料編 第1章 G7 茨城・つくば科学技術大臣会合の開催

バ	ス選	行	スク	rジ		ール	,																																	
	到着時刻	19:00	21:15	19:00	21:15	18:45	21:15	18:55	18:55	18:55	18:55				1825			1825			18:30			18:30		18:35	18:45	18:55			18:00			18:00		18:05		18:05	18:00	19:45
到事体	到着場所	無額	スキャックナール	報	マネック ス→エボ カトボ	東線	イネック ス→エポク カルボ	上海駅東口	土浦駅東口	土浦駅東口	土海駅東口				市役所			市役所			市役所			市役所		市役所	市役所	市役所			英額			東線		総		東線	無	国際会議場
	移動時間	0:10	0:15	0:10	0:15	0:15	0:15	0:30	0::0	0:30	0:30				0:25			0:25			0.25			0:25		0.25	0:25	0.25			0:15			0:15		0:15		0:15	0:15	0:15
	出発時刻	18:50	21:00	18:50	21:00	18:30	21:00	18.25	18:25	18:25	18:25				18:00			18:00			18:05			18:05		18:10	18:20	18:30			17:45			17:45		17:50		17:50	17:45	19:30
	配車時刻	18:35	(無量)	18:35	(製量温)	18:20	(製量温)	18:10	18:10	18:10	18:10				17:50			17:50			17:50			17:50		17:50	18:20	18:20			17:20			17:20		17:20		17:20	17:15	18:00
	乗車場所	会議場正面	東雲駐車場	会議場正面	東雲駐車場	会議場正面	東雲駐車場	会議場正面ロータリー	会議場正面ロータリー	会議場正面ロータリー	会議場正面ロータリー				竹園2丁目			竹園2丁目 バス停			竹園2丁目 バス停			竹園2丁目 バス停		竹園2丁目 バス停	竹園2丁目バス停	会議場正面ロー タリー			会議場正面ロータリー			会議場正面ロータリー		会議場正面ロータリー		会議場正面ロータリー	会議場正面ロータリー	東雲駐車場
	等等		大臣・VVIP移動				デリゲーション移動	上海駅東口	土油駅東口	土油駅東口	上海駅東口				─般・学生市役 所始発												S-1からC-6 に移行	S-2からC-7 に移行			一般東雲始発					,,,			メディア東雲移動	メディア会議場移動
	0 45		大 田		K K		īk								ſ												Ś	-S			'								× ×	ĭk *
12	45 0 15 30																																					Ħ	=	=
50	0 15 30 45 0		東雲にて待機		東雲にて待機		、待機																																\exists	\exists
	15 30 45 0		東側に		無職に		東雲にて待機																																	
61	15 30 45 0																																						東雲待機	
18	15 30 45 0 15																																						lay.	\exists
17	30 0 15 30																																							
91	30 0	: 待機		・待機					獭	獭	李機									李機			李機		待機		で運行	に運行		・待機			· 待機		待機		待機			\equiv
14 15	300 300	営業所回送・待機		営業所回送・待機				送・待	送·待	送・待	営業所回送・待機	·待機								営業所回送・待機			営業所回送・待機		営業所回送・待機		事としる	2号車として運行		営業所回送・待機			営業所回送・待機		営業所回送・待機		営業所回送・待機		红	\equiv
13		柳		絅				営業所回送・待機	営業所回送・待機	営業所回送・待機	阿業別	営業所回送・待機								営業所			加業別		営業別		S-1号車として運行	S-2号		絅			順		営業別		営業別		として運行	
12	0 1530450							र्यना	ánr.	ánī		極機															S	S											5号車分	
	15 30 45 0																																					\exists	<u></u>	\exists
Ξ	15 30 45 0															-																								
10	450																																							\exists
	0 15 30																																						\pm	\exists
	2000年	2		国際会議場 配準(目標 し)				0		0	0	0) 学生市役所 始発) —般市役所 始発		0	0		0	0) 学生市役所 最終	0) 一般市役所 最終) 一般東雲 始発	10		10	5 一般東雲		0		2			
到着場所	- 到着時刻	場 11.25		11:00				10:30	II 10:30	10:40	10:50	II.00	10:30	11:30		10:30	11:30		10:40	II:40		10:50	11:40		II:50				II:30	12.25		11:45	II 12:25		11:55		12:05			
RM	到着場所	国際会議場正面		国際会議場正面				竹園2丁目	竹園2丁目	竹園2丁目	竹園2丁目	竹園2丁目	竹園2丁目	竹園2丁目		竹園2丁目	竹園2丁目		竹園2丁目	竹園2丁目		竹園2丁目	竹園2丁目		竹園2丁目				竹園2丁目	竹園2丁目		竹園2丁目	竹園2丁目		竹園2丁目		竹園2丁目			
	移動時間	0:10						0:30	0:30	0:30	0:30	0:30	0:20	0.20		0.20	020		0.20	0.20		020	0:20		0:20				0:15	0:15		0:15	0:15		0:15		0:15			
	出発時刻	11:15						10:00	10:00	10:10	10:20	10:30	10:10	11:10		10:10	11:10		10:20	1120		10:30	11:20		11:30				11:15	12:10		11:30	12:10		11:40		11:50			
田郷集	配車時刻	11:00						9:50	9:50	9:50	9:50	10:15	10:00	11:00		10:00	11:00		10:05	11:05		10:05	11:10		11:10				11:00	11:50		11:00	12:05		11:00		11:00			
	配車場所	オークラアネックス						土浦駅東口	上消影東口	上游駅東口	上海駅港口	土浦駅東口	市役所	市役所		市役所	市役所		市役所	市役所		市役所	市役所		市役所				東雲	無		半額	東線		東部		東雲			
	松	10~20 月	10~20	10~20	10~20	20~40	20~40	40~50	40~50 名様	40~50 土浦駅東口 名様	40~50 土浦駅東口 名様	40~50	20~40名権	20~40名標	40~50名標	20~40名様	20~40名權	40~50名権	20~40	20~40	40~50名權	20~40 名様	20~40	40~50名標	20~40	40~50名標	40~50	40~50名権	20~40名權	20~40 名標	35~45 名様	20~40	20~40	35~45	20~40	35~45	20~40	35~45	20~40	20~30
	利用形態	- ^ ^ -	L L L L L L L L L L L L L L L L L L L		日参	1 2 2	資品・中国イン ゲーツョン参覧	土浦駅東口学生 移動①	土浦駅東口学生 移動②	土浦駅東口学生 移動③	土浦駅東口学生 移動(3)	土浦駅東口学生 4 移動⑤	往路学生市役所 移動①	往路一般市役所 移動①	復路一般・学生 市役所移動① 名様	往路学生市役所 移動②	往路一般市役所 移動②	復路一般・学生 市役所移動②	往路学生市役所 移動③	往路一般市役所 移動③	復路一般·学生 市役所移動③	往路学生市役所 移動(3)	往路—般市役所 3 移動 (3)	復路一般・学生 市役所移動(3)	往路一般市役所 移動⑤	復路一般·学生 40~50 市役所移動⑤ 名様	復路一般・学生 40~50 市役所移動® 名様	復路学生市役所 移動⑦	往路一般東雲 移動①	往路一般東雲 移動 ⑥	復路一般東雲 移動①	往路一般東雲 移動②	往路一般東雲 移動①		往路一般東雲 移動③		往路一般東雲 移動 ④	復路一般東雲 移動⑥	復路メディア東 20~40 蝦移動 名様	復路メディア会 20~30 議場移動 名様
	運行	Θ	@	Θ	@	0	0	Θ	Θ	Θ	Θ	Θ	Θ	@	(0)	Θ	@	@	Θ	@	00	Θ	@	(0)	0	@	•	9	0	@	60	Θ	00	00	Θ	@	0	@	0	0
バス号車	方面別号車番号 運	10年(中	型貨物(計	中の一名	型無切	1	L K (記録間 K)	T-1号車(接 切or路線)	T-2号車 (貸 切or路線)	T - 3号車 (貸切)	T-4号車(貸 切の「路線)	T — 5 号車 (大型貸切)		C-1号華 (路線)			C-25事(路線)			C-3号車(路線)			C-4号華 (路線)		C-5号車((議報	S — 1 → C — 6 号車 (大型 貸切)	S-2→C-7 号車 (大型 貸切)		S-1号車(大型銀切)			S-2号車(大型銀切)		S-35章 (大	型(約)	S-4号華 (大	型能切	7-5+8-5	推机
	中中		15-1		15.2		15-3	15-4	15-5	15-6	15-7	15-17		15-8			15-9			15-10			15-11		5		15-13	15-14		15-13			15-14		4	-		15-16	15-17	

(9)中高生を含む一般来場者・招待者へ軽食・飲料の提供

①つくばのパン・・・1,100食分

店名	個数
クーロンヌつくばカスミ店((株)クーロンヌジャポン)	100セット
BAKERY&CAFE BRUNO	100セット
手づくりパンの店 パンドラ	100セット
(株)ペニーレイン	100セット
Le Pain Gris*Gris(ル・パン グリグリ)	30セット
(株) ポンパドウル	100セット
クーロンヌつくば店((株)クーロンヌジャポン)	100セット
ピーターパン並木店	100セット
Boulangerie encuit(ブーランジェリ アンキュイ)	100セット
Backerei Brotzeit(ベッカライ・ブロートツァイト)	100セット
FRISCHES BROT MORGEN(モルゲン)	100セット
Pain de Vraie(パン・ド・ブレ)	70セット

※1セット2個入り

②飲み物

○昼食時 … 1,100本

【キリンビールマーケティング(株)】

・生茶 250ミリリットル紙パック

・トロピカーナ/オレンジ 250ミリリットル紙パック

・トロピカーナ/グレープ 250ミリリットル紙パック

・トロピカーナ/アップル 250ミリリットル紙パック

○休憩時 … 1,100本

【(株) 伊藤園】

・おーいお茶 250ミリリットル紙パック

G7開催記念シンポジウム 議事録要旨 (日本語仮訳)

参照 資料編 P 221

G7茨城・つくば科学技術大臣会合開催記念シンポジウム ~科学技術の未来を語る~

【開催概要】

日時:平成28年5月15日(日)13:30~17:30 会場:つくば国際会議場 大ホール

【プログラム】

第1部 歓迎セレモニー

- ◆島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)
- ◆橋本 昌 茨城県知事

(G7 茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会 会長)

◆市原 健一 つくば市長

(G7 茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会 副会長)

第2部 シンポジウム

(1) オープニングスピーチ:「Running beyond the Frontiers」 江崎 玲於奈 つくば国際会議場 館長 (ノーベル物理学賞受賞者)

(2) 基調講演1

「Role of basic in the development of science and technology」 小林 誠 (共) 高エネルギー加速器研究機構

特別栄誉教授 (ノーベル物理学賞受賞者)

(3) 基調講演2:

「The future society robot suit HAL®」 山海 嘉之 (大) 筑波大学教授/ サイバニクス研究センター長、 CYBERDYNE (株) 社長/CEO、 内閣府ImPACTプログラムマネージャー

- (4) 各国大臣スピーチ
- (5)「ハイスクール科学技術サミット」提言書の提出
- (6) パネルディスカッション

「国際的に開かれた研究組織が科学技術にブレークスルーをもたらす 〜次世代を担う若者に向けて〜」

モデレータ:

原山 優子 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員、

元東北大学大学院工学研究科教授

パネリスト:

小谷 元子 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員、

(大) 東北大学原子分子材料科学高等研究機構長兼大学院

理学研究科数学専攻教授

村山 斉 (大)東京大学数物連携宇宙研究機構長、特任教授 柳沢 正史 (大)筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構 教授 伊丹 健一郎 (大)名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 拠点長、教授

ジョナサン・ドーファン (学) 沖縄科学技術大学院大学学長兼理事長

【発表要旨】※議事録は協議会が独自に書き起こしたもの 第1部 歓迎セレモニー

◆シンポジウムの議論を大臣会合の参考に

島尻 安伊子 内閣府科学技術政策担当大臣 (科学技術政策担当)

G 7 茨城・つくば科学技術大臣会合の開催を記念した本シンポジウムから、大臣会合が公式にスタートすることになる。大臣会合では、保健医療と科学技術、科学技術イノベーションの推進に向けての女性参画拡大や次世代の人材育成、海洋の未来、オープンサイエンス等の6つの議題で議論を行い、その成果を共同声明として世界に向けて発信する予定だ。ノーベル賞受賞者を始め、世界の第一線で活躍する研究者、各国の大臣等にご登壇いただき、未来の科学技術のあり方や、国際協働の重要性等について思及交換を行う本シンポジウムの議論や成果を、大臣会合の参考として活用したいと思っている。また科学技術の素晴らしさが、次代を担う若者たちに伝わることを期待している。

◆茨城県から新たな科学技術イノベーションを創出

橋本 昌 茨城県知事 (G7茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会 会長)

資源小国である日本は、創造的な技術革新により、社会の持続的発展を図っていく

ことが大変重要な課題でもある。茨城県では、科学技術や多様な産業の集積を最大限に活用して、日本をリードする科学技術イノベーション立県を目指しており、科学技術分野の産業の育成及び将来の科学技術を担う人材育成に力を注いでいる。特に2万人を超える研究者が最先端の研究に取り組んでいるつくば市は、日本を代表する研究開発拠点であり、今回の大臣会合の場として、日本で最もふさわしい場所と考えている。本日のシンポジウムの議論を通じて、科学技術の素晴らしい将来像が世界に発信され、科学技術イノベーションが創出されることを大いに期待とている。

◆若者の科学技術に対する関心を高める場として 市原 健一 つくば市長 (G7茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会 副会長)

つくば市は、29の大学・公的研究機関、多数の民間企業の研究所等を擁する日本を代表する国際科学技術都市であり、関係する研究者は2万人を超える。また国際戦略総合特区やモビリティーロボット実験特区に指定され、各種の社会実装や実証実験を実施。さらにスマートシティの構築等の国際的なプロジェクトが進んでいる。こうした取組が認められ、科学技術大臣会合の開催地に選ばれたものと自負している。世界の第一線で活躍する科学者や政治家の皆さんによる本シンポジウムでのメッセージが、次世代を担う若者の科学技術への関心や探求心を高め、世界に羽ばたくきっかけになることを願っている。

第2部 シンポジウム

(1) オープニングスピーチ

「Running beyond the Frontiers」 江崎 玲於奈博士 つくば国際会議場館長 (ノーベル賞受賞者)

私が東京帝国大学の1年生であった1945年3月9日から10日未明にかけて、東京は大空襲によって死者10万人という未曾有の被害を受けた。私も東大近くの下宿から焼け出されのだが、驚くことに10日の朝8時には、田中務教授はいつもと少しも変わらずに「物理実験第一」の講義を行った。私たちは必死になってノートを取り、物理学の世界に没頭した。何があっても学ぶことに最大の価値を置けという、東京帝国大学のアカデミズムの存在を教わったわけだ。これは私の生涯、身に染みる教えとなった。

安定した社会では、将来は現在の延長線上にあると思いがちだ。しかし変革の時代においては、イノベーションあるいはブレークスルー、科学上の飛躍が将来を作る。 そこで決定的役割を演じるのが、個人の創造力だ。

我々の知的能力は2つに分けることができる。1つは分別力で、獲得した知識を解析、理解、判断、選択する能力のこと。もう1つが創造力。核心を捉えて実体を見抜き、豊かな想像力と先見性の下に、新しいアイデアを生み出す能力のことだ。2つの能力は年齢とともに変化する。想像力は20歳頃が100パーセントで70歳が0パーセントの曲線になる。分別力は20歳の頃は0パーセントで70歳では100パーセントと増加する。2つの双曲線が交わるのは大体45歳で、いわばこの頃が人生の頂点ということになる。アインシュタインを始め多くの科学者達は、45歳になる前に重要な発見や業績を達成している。そこには創造力があったと言える。科学にとって重要な創造力を育むために、我々は成功を収めた研究者だけでなく、若い研究者がもっと創造的な成果を上げることを支援しなければならない。最後に、創造力を高めるために「してはいけない5カ条」を紹介したい。これは成功への十分条件ではないが、今後の指針としてほしい。

①社会の常識、しがらみに捉われてはならない

②専門分野の権威の先生にしがみついてはいけない

③無用なものまで抱え込んではいけない。本当に重要で意味ある情報のみを保存する

(自分の主張を貫くために戦うことを避けてはならない)

⑤初々しい感性と、あくなき好奇心を失ってはいけない

この5カ条は、申し添えておきたい

(2) 基調講演1

「Role of basic in the development of science and technology」 科学技術の発展における基礎研究の役割

小林 誠 (共) 高エネルギー加速器研究機構名誉教授 (ノーベル賞受賞者)

科学の発達は事前に想定できるものではなく、しばしば、ふいに今までの基礎研究 の積み重ねから生まれるものだ。期待していない時にいきなり生まれ、進展がある、 科学技術とはそういうものだ。

私の研究分野である「高エネルギー物理学」は基礎研究の典型例だ。物質は電子、 陽子、中性子という3つの素粒子で構成されているが、その素粒子の"ふるまい"を、 高エネルギー加速器という装置(施設)で観測・研究するというものだ。研究を通じて、 物質や宇宙の成り立ち、あるいは自然の法則の根本的な部分の解明を試みている。基

礎研究は日々の暮らしに直接的に役立つものではない。しかし私達の暮らしを豊かにしている様々なツールは、基礎研究がもたらした科学の知識を組み合わせることで生まれたものだ。科学の分野は多岐にわたり、それぞれの分野で基礎研究が行われ、日々知識を積み上げ、科学の幅を広げ堅牢なものにする役割を担っている。人類は基礎研究に基づく多様な科学の知識を組み合わせて、新たな科学技術を生みだしてきた。いわば科学とは、各分野が相互に関連し合って全体として大きなシステムを構成しているのだ。したがって基礎研究と応用科学のパランスを取りながら、トータルのシステムとして科学の進歩を促していく必要がある。

人類は今、地球温暖化や病気等の様々な社会的問題を抱え、科学知識によって解決することへの期待は大きい。産業分野でも最先端の科学に基づいた技術を必要としている。科学分野への投資も積極的に行われているが、その際に社会への直接的や有用性や影響力が重視されがちだ。しかし直接的な成果を求めて応用科学に研究が偏ると、科学の適切な発展を阻害したり科学の多様性を失うといったリスクもある。応用科学と基礎研究とのバランスが必要だ。基礎研究の成果は簡単に測定できるものではない。しかし評価をすることが難しいからといって、資金を削減するようなことがあってはならない。科学と社会の正しい理解に基づいて、長期的な視点を持って、科学技術を振興していかなければならない。

(3) 基調講演2

「The future society robot suit HAL®」 イノベーティブなサイバニックシステムによる、フューチャーソサエティー・ウィズ・ロボットスーツHAL®

山海 嘉之 (大) 筑波大学教授、サイバニクス研究センター長、 CYBERDYNE (株) 社長/CEO、 内閣府 ImPACTプログラムマネージャー

人間社会は狩猟・採集社会からスタートして、農業社会、産業社会と進化し、情報化社会(I T社会)へと進んでいる。そして次に来る5番目の社会「Society5.0」を称くのは「サイバニックテクノロジー」だ。サイバニックテクノロジーは、人間の脳の情報と、ロボット工学を始めとする最新の各種テクノロジーを融合させる試みで、医療や福祉分野から産業や生活まで様々な場面で利用されることが見込まれる。例えば病気や事故によって運動神経や肉体を損傷し運動に障害が発生した患者にサイバニックテクノロジーを利用することで、脳の信号を筋骨格に伝達し運動が可能になったり(機能再生)、介護の自動化や省力化等の負担軽減が実現する。工場や流通等の産業分野では、ロボットスーツの活用で重い荷物も扱いやすくなるし、社員の負担軽くなる。さらに高血圧や心臓の機能を測定するデバイスの小型化等、予防医学の分野への活用も進んでいる。

世界的に高齢化が進行し、介護や医療、福祉に関わる社会的コストが大きな問題になっているが、サイバニックテクノロジーは、そうした問題解決に寄与するものとなる。こうした社会イノベーションを促すことで、来るべき社会としての「Society5.0」の実現を目指している。もちろん日本だけではない。アメリカやドイツ、ヨーロッパでのコラボレーションやビジネス展開を進めており、国際的な協業となっている。私達の会社では、サイバニックシティを建設する構想を持っている。サイバニックテクノロジーを搭載した都市を作ろうというアイデアだ。ロボットが何かを買って、宅配する。介護施設では様々なデバイスが仕事をしてくれる。ロボット型の椅子を作ることもできるなど、可能性はひろがる。我々は次世代のテクノロジーを開発することによって、こうした社会を作りたいと思っている。基礎科学と同様に、テクノロジーも人間社会に重要なものであると確信している。

(4) 各国大臣スピーチ

◆人材力の強化と知の基盤の強化を目指す 島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

日本では、2016年4月から「第5期科学技術基本計画」をスタートした。基本計画では、科学技術イノベーションの基盤的な力の強化を大きな柱の一つとして掲げており、人材力の強化と知の基盤の強化を、重要な政策課題として取り上げている。人材力の強化は、次世代の科学技術イノベーションを担う多様な人材の確保・育成、女性の活躍促進を目指すもので、特に女性の活躍促進については研究者の新規採用割合を自然科学系全体で5年以内に30パーセントにすることを目標として設定している。知の基盤の強化については、国際共同研究の推進と世界トップレベルの研究拠点の形成を重要な取り組みとして取り上げている。つくばの地はまさに地域全体が、その機能を有している地域であり、国内外の第一線の研究者を引き付け、優れた研究環境と確認の研究活動を行うとともに、それぞれの分野における人材育成の場としても期待している。

◆今まで以上に国際的な協力を推進 ヨハンナ・ヴァンカ 教育研究大臣(独)

ギリシャの哲学者ソクラテスは「世界を動かしたいならば、まず自分が動きなさい」と言った。この言葉は現在の私達の世界にも重要な言葉だと思う。地球温暖化やデジタル化の進行等、私達は様々な課題を抱えている。その課題解決につながるアイデアを持っている人々、世界で何かを動かしたいと思っている人々を私達は必要としている。そして今まで以上に国際的な協力活動が必要だ。グローバルな課題に対して、豊かな工業国である私たちG7 は責任を持っている。私達工業国が問題に対する答えを得ることによって、全世界に貢献できるのだと考える。その意味でG7 科学技術大臣会合は定期的に行うべきだし、大きな研究施設等もインターナショナルにして共同研

究や共同利用を進めるべきだ。グローバルな問題を力を合わせて解決するためには、 若い人達が様々な国で経験を集めることが大事だ。若い世代における日独の交流をさ らに進めていきたいと思う。

◆G7のパートナーシップで次世代のリーダーを育成 カースティ・ダンカン 科学大臣(加)

東京大学の梶田先生とカナダのクイーンズ大学のマクドナルド先生がノーベル賞を共同受賞したり、KEK((共)高エネルギー加速器研究機構)とカナダのトライアンフ研究所の間にはとても緻密なパートナーシップがある等、日本とカナダはSTEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)分野でも関係は緊密だ。カナダには、自動車バッテリーの研究を大学と自動車会社が共同で行ったり、ハンチントン病の研究が加速、またCCSアムンゼンというリサーチ・アイスブレーカ一等の科学イノベーションの動きがある。G7の若い世代は素晴らしい能力を持っている。彼らは科学技術イノベーションのリーダーになることができるということだ。2国間やマルチのフォーラムによるパートナーシップを通して、国際的な研究協力を確立していくことが可能だと思っている。

◆科学イノベーションと「インクルージョン」 クレア・ダーキン ビジネス・イノベーション・技能省 グローバル科学・イノベーション・教育 担当局長(英)

◆明日の科学リーダーをどう育てるか ナジャット・ヴァロー=ベルカセム 国民教育・高等教育・研究大臣(仏)

我々は科学技術の分野で大変なパラドックスに見舞われている。現在、科学技術は日常生活に不可分の存在だ。これほど身近で大事なのに、皆は魅力的と思っていない。科学分野の研究職を志す人材が減っている。様々な課題を抱える現代社会では、リーチとイノベーションが必要だ。若い人材を研究の世界に引き寄せ、明日の科学リーダーとなるべき人材を育成することが重要だ。科学が社会の価値になるように、様々なレベルで努力をしなければならない。その1つとして男女の差別に対応する必要がある。世界で女性研究者は28パーセントに過ぎない。フランスでも理工学部系の研究者は25パーセント以下だ。女性のインスピレーションを科学分野で活かすために、もっと女性の研究者やエンジニアを増やす必要がある。我々は政策を立案し、均等なチンス、処遇、キャリア展望を与えなければならない。また女性の科学者、エンジニア、学生、研究者の理工系女性国際ネットワークのようなものを育てていく必要もある。

◆アメリカにおけるSTEM教育の動向 ジョー・ハンデルスマン 科学技術政策局科学担当次長(米)

アメリカでは、雇用や新産業の創出には科学技術イノベーションが有効との考え方からSTEM教育を重視して、「STEM for ALL」という取り組み(イニシアティブ)を進めている。まず指導法の改革。学生が情報を吸収し、記憶するだけの受動的学習から、じっくりと概念に取り組み、問題解決や質問のやり取りを行う能動的学習に移行している。2つ目はコンピュータサイエンス。全ての年齢の子供にコンピュータサイエンスの提供を強化するものだ。3つ目は無意識の偏見をなくすということ。女性やマイノリティに対する差別や偏見は、教師や大学教授の中にも無意識ながら潜んでいる。こうした見えざる偏見を是正することに取り組んでいる。今回の大臣会合において、女性とSTEMが大きな議題となったことを非常にうれしく思う。今後も互いに学び合い、STEM教育促進の新しい方法を模索できればよいと考えている。

(5)「ハイスクール科学技術サミット」提言書の提出

**2016年2月に、G7科学技術大臣会合に先駆けて行われた、「ハイスクール科学技術サミット」の参加者が、サミットの議論を取りまとめた提言書をG7の大臣代表に提出。併せて提言者の代表がスピーチを行った。

八戸 琢磨さん ((学) 茗溪学園 茗渓学園高等学校)

「科学技術は人類を幸せにすることができるのか」。これが2月に行ったハイスクール 科学技術サミットのテーマだった。県内の高校生8名と筑波大学に通う14名の留学 生は、「医療と科学技術」、「新エネルギー」、「食糧と科学技術」、「宇宙開発と工学」 の4つのサブテーマに関して話し合いを行った。科学技術の開発によって、それぞれ の分野に大きな効果がもたらされることが分かった一方で、必ずしも幸せをもたらさ ないという結果もあった。それを踏まえて、技術が本当に人類を幸せにすることを担 保したいと考え、以下のような提案を取りまとめた。

資料編 第1章 G7茨城・つくば科学技術大臣会合の開催

提案①:科学技術の発展がもたらす成果を、世界中の人々が平等に享受できる社会を 実現すること

提案②:科学技術を正しく理解し、適切な使い方ができるように、次代を担う世界中 の若者に対する科学技術教育を充実させること

科学者と社会の間の連携を推進し、教育を充実させることによって、科学技術への 理解を深め、社会の便益のために使えるようにしなければいけない。そのために全て の社会の人々、全ての国々の人たちが、科学技術に関する基礎的な教育を受けるよう にし、社会の倫理を守っていくことができるようにすることが必要だ。

(6) パネルディスカッション

国際的に開かれた研究組織が科学技術にブレークスルーをもたらす~次世代を担う若 者に向けて~

モデレータ:原山 優子 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員、 元東北大学大学院工学研究科教授

パネリスト:

小谷 元子 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員、 (大) 東北大学原子分子材料科学高等研究機構長兼 大学院理学研究科数学専攻教授

(大) 東京大学数物連携宇宙研究機構長、特任教授 柳沢 正史 (大) 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構 教授

伊丹 健一郎教授 (大) 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究 所拠点長、教授

ジョナサン・ドーファン (学) 沖縄科学技術大学院大学学長兼理事長

科学者であるということはどのようなものか 原山 優子 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員、 元東北大学大学院工学研究科教授

科学者はどのようなイメージだろうか。研究所の実験室において、チームで実験や 研究をする。研究資金の調達や人手の手配もしなければいけない。アインシュタイン は一匹狼で研究をしていたというイメージがあるかもしれないが、現在は1人で研究 することは非常にまれで、チームワークが鍵になる。ではチームで働くとは、どうい うことなのか。一緒に研究しながらリーダーシップを発揮する必要もある。実際にど のようにリーダーシップを発揮しておられるかも聞いてみたい。研究室を超えて様々 な活動をしなければならないこともある。相手は科学者ではなく、普通の社会の人、 普通の市民かもしれない。社会イノベーションのためには、研究者を超えて世の中に 出ていかなければならない。他者によってインスピレーションを受けることもあるし、 他者をインスパイアすることもある。このパネルディスカッションは、日本で活躍す る科学者の皆さんの経験や行動、日頃の考え方から、科学者の姿を紹介しつつ、若い 人たちへのメッセージとしたい。

数学は宇宙にアクセスする鍵となる

小谷 元子 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員、 (大) 東北大学原子分子材料科学高等研究機構長兼大学院理学研究科 数学専攻教授

ガリレオは、「宇宙の本は数学の言葉で書かれている」と言った。宇宙の神秘を理 解したいのであれば、数学を知らなければいけないということだ。またウィグナーと いう物理学賞も、「宇宙に人間の存在は関係ないが、人間が発明した数学は宇宙にア クセスする鍵となる」と述べている。これが私の数学者としてのモチベーションとなっ ている。今日、数学は重要性が増している。ビッグデータ、AI、ネットワーク、コ ントロール、セキュリティーという新しい技術は、全て数学に基づいている。実際に 私は数学者だが、材料科学者と一緒に仕事をしている。数学者が夢を描き材料科学が 実現してくれるわけだ。新しい素材が生まれると我々の暮らしが変わり、生活の価値 が変わって、文化が生まれる。数学も材料科学も社会に貢献しているということにな る。私は2006年ぐらいまで外側の声を聞かずに満足していた。その頃は離散幾何 解析と呼ばれる、新しい数学をつくりたいと思っていたからだ。そこに材料科学者の 声が聞こえてきた。新しい数学でミクロとマクロをブリッジングできるという。東北 大学原子分子材料科学高等研究機構で、材料学者と一緒に数学を使った研究を続けて WZ.

世界を体験することが重要

村山 斉 (大) 東京大学数物連携宇宙研究機構長、特任教授

私は日本で生まれて西ドイツで育った。日本に戻ってきた時にどうしても日本にな じめなかった。日本では、皆が同じように振る舞うこと、皆が同じ歌を歌うことを求 められた。それが私は不満だった。その上に自分が望んでいた分野の研究が遅れていたこともあって、カリフォルニア大学バークレー校に移った。アメリカの競争は激し いが、フェアで個人の意思を尊重してくれる。また世界中とのネットワークも作りや すい。一度は日本を離れたが、その後日本の良さも再認識し、現在は東京大学数物連 携宇宙研究機構の機構長として、日本半分、アメリカで半分という生活をしている。 科学者は人類に共通する課題を解決することが役割だ。宇宙はどこから始まるのか、 どういった運命があるのか、何でできているのか、基本法則は何なのか、我々はどこから生まれているのかといったことだ。しかしどこから生まれようが、世界中の人と 連携することが重要だ。自分を信じて、自分が情熱のある分野を探すこと。サイエン

スは楽しくワクワクするものだ。英語が完璧に話せなくても大丈夫なので、海外に行っ て日本以外での経験を積んでもらいたい。

問題を解くよりも、良い問題を見つけてほしい 柳沢 正史(大)筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構 教授

私は日本で生まれて1985年に筑波大学医学部を卒業した。私はその時に、最も 重要な人生の決断を行った。それは医者ではなく、医科学の研究者になるという決断 だ。その後、筑波大学でエンドセリンと呼ばれる分子を発見することができ、またノー ベル賞受賞者であるゴールドスタイン先生とブラウン先生から研究機関にリクルート され渡米。以降はアメリカで研究を続けた。いわばアメリカが私を育ててくれたと言 える。日本に戻ってくることは全く考えていなかったが、大きなプロジェクトのCA 〇になるよう筑波大学から招聘され、5年ほどテキサス大学と筑波大学の両方に実験 室を持って、毎月テキサスとつくば市を往復。睡眠科学者が時差に悩むというありさ まだった。最終的には2014年にテキサス大学の研究室を閉じて帰国した。こうし た経験から、若い人達に助言、アドバイスをしたい。まずは「良い質問を特定するこ とは、実は解決するよりも難しい」ということ。問題に答えを出すことには慣れてい るが、実は問題を見つけることのほうが難しく、とても重要なのだ。もう1つは、ぜ ひ海外経験を持ってほしい。1年でも10年でも外国に住んでみる。そうすると日本 では見えなかったことが分かるようになるはずだ。

「ユニークであるか」と自問自答してほしい

伊丹 健一郎 (大) 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長、教授

私は事実や化学式を暗記させられるばかりの化学は好きではなかった。16歳の時 にベンゼンという美しい分子を見た。シンプルな6員環の分子が様々な有用な機能分 子に変わることを知り、初めて化学をクリエーティブなものだと思った。もう1つ、 スーパーカーが大好きだった私は、ガソリンに代わる物質を合成して「伊丹 (イタミ)」 と名付けようと本気で思い、科学の道を志したのだ。ガソリンのような新しい分子を とついる。 であうということもモチベーションになった。こうして自分の将来を決めた。私から のアドバイスは、「ユニークであれ」ということだ。試験で良い成績を収め、良い大 学に行くこと、称賛される論文を書くことも大事だが、最終的に一番大事なのは、自 分がユニークかどうかだ。この質問をいつも自分自身に問うて欲しい。多くの場合、 答えはノーになる。しかし自問自答を繰り返していれば、いつの日か「イエス」にな るはずだ。

科学技術イノベーションのための3つの要素 ジョナサン・ドーファン (学) 沖縄科学技術大学院大学学長兼理事長

基礎科学と応用科学の推進は、文明の成長並びに社会安全の重要な柱の一つだ。新 しい知識がイノベーションの基盤となり、イノベーションは経済成長と安全保障に とって不可欠な要素となる。また気候変動、環境の劣化、疾患の蔓延、食料や水の不 足等の地球を脅かす課題に対応する、持続可能なグローバルなソリューションを提供 してくれる。STI(科学技術イノベーション)リーダーの育成が重要なゆえんだ。 STIのリーダーの育成にとっても重要な3つの要素を挙げてみる。1つ目の要素は、 助けになるような学習・研究環境を形成し、若者が自立性を持ち、情熱、好奇心、創 造力を発揮できるようにサポートすること。2つ目の要素は、メンター(指導者・助 言者)の役割の重要性だ。若者には指導が必要であり、メンターがその役割を十分に 発揮しなければいけない。3つ目の要素は、STIリーダーは柔軟に投資できるよう、 資金をコントロールできる権限を持つべきということだ。結果が予測できない研究や 時間を要する研究にも、予算を充当できるような自由度が欲しい。制約ばかりではイ -ションが凍りつく恐れもある。

[会場との質疑応答]

Q1:(高校生) 留学すると日本の大学受験に問題が出る。留学というリスクを取る ことにメリットがあるのか疑問だ。

A:日本の大学を受けるのが難しくなるのであれば、アメリカの大学を受ければい い。そういうリスクを取らなければいけない。人生の中の1年はとても短いものだ。 また、決まったステップでなければ自分のキャリアは築けないというのは日本だけの こと。違う世界があることを知るべきだ。

Q2: 自主性に任せるばかりではなく、多少は誘導しながら科学者の全体数を増やす ことも必要になってくると思うがどうか。

A:大学に行った後、研究者にならなくても、人間の幅を広げるためにはいろいろ な体験が必要だと思う。その意味では科学分野の勉強もそうした体験の1つになる。

「クロージング)

島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

イノベーションを起こすのは人であり、組織やセクターを超えて交流することで、 多様な知識等が融合し、そこから新しい価値が作り出される。次世代の科学技術を担 う人材の育成は世界的に重要な課題である。本日の議論を通じて、科学秘術の重要性 や科学技術の未来への理解が深まるとともに、多くの若者が科学イノベーションを担 う研究者、技術者、産業人等を志す契機になることを期待している。

Memorial Symposium for the G7 Science & Technology Ministers' Meeting in Tsukuba, Ibaraki

- Discussing the future of science and technology- Minutes of proceeding (English original) 参照 資料編 P 231

(Program Overview)

Date and Time: from 13:30, May 15, 2016 (Sunday) Venue: Tsukuba International Congress Center, Main Convention Hall

(Program)

- Part 1: Welcome Ceremony
 ◆ Aiko Shimajiri, Minister of State for Science and Technology Policy
- ♦ Masaru Hashimoto, Governor of Ibaraki Prefecture
- Kenichi Ichihara, Mayor of Tsukuba City

- Part 2: Symposium
 (1) Opening Remarks: \[\text{Running beyond the Frontiers} \]
 Dr. Leo Esaki (Director of Tsukuba International Congress Center, Nobel Laureate)
- (2) Keynote Address 1: "Role of basic research in the development of science and technology"
- Dr. Makoto Kobayashi (physicist), Nobel Laureate.
- (3) Keynote Address 2:
- "The future society with robot suit HAL"

Dr. Yoshiyuki Sankai (University of Tsukuba, Program Manager of the Impulsing Paradigm Change through Disruptive Technologies (ImPACT) Program, initiated by the Council for Science, Technology and Innovation (CSTI) of the Cabinet Office,

(4) Ministers' Speech

(5) Submission of Proposals from the "Science and Technology High School Summit'

(6) Panel Discussion

Theme: Internationally open research organizations deliver break-through for science and technology- a message for the next generation

Yuko Harayama (Executive Member, Council for Science, Technology and Innovation)

(Panelists)

Motoko Kotani (Executive Member, Council for Science, Technology and Innovation) Professor Hitoshi Murayama (The University of Tokyo, Kavli Institute for the Physics and Mathematics of the Universe)

Professor Masashi Yanagisawa (University of Tsukuba, International Institute for Integrative Sleep Medicine)

Professor Kenichiro Itami (Nagoya University, Institute of Transformative Bio-Mole-

Dr. Jonathan Dorfan, President of Okinawa Institute of Science and Technology

[Remark summary] NB:Minutes were recorded independently by the Council

Part 1:Welcome Ceremony

"Let the discussions at this Symposium be a reference for the Ministers' Meet-

Aiko Shimajiri, Minister of State for Science and Technology Policy

This memorial symposium marks the official start of this G7 Science and Technology Ministers' Meeting in Tsukuba, Ibaraki. At the G7 Science and Technology Ministers' meeting in Tsukuba, Ibaraki, six themes including Global Health - Healthcare and S&T, Gender and Human Resource Development for STI, the Future of the Seas and Oceans, and Open Science will be discussed. The outcome will be disseminated to the world as a joint communiqué.

Joined by the ministers attending the ministers' meeting as well as Nobel Prize laureates and cutting edge scientists, today's symposium will deal with the future of STI and the importance of international cooperation. I hope to utilize the discussions and results of this symposium as a reference for the Ministers' Meeting. I sincerely hope that the symposium will convey the best of science and technology to the world, especially to our next generations.

"Creating New Science and Technology Innovation from Ibaraki Prefecture" Masaru Hahimoto, Governor of Ibaraki Prefecture and Chairman of the Promoting Council for the G7 Science and Technology Ministers' Meeting in Tsukuba, Ibaraki

For Japan as a natural resource-poor country, aiming at sustainable social development through creative technological innovation is a very important issue. Here in Ibaraki, we are taking full advantage of the abundance of science and technology resources and various industries concentrated in Tsukuba to become a prefecture built on science, technology, and innovation set in Japan. We are also concentrating our efforts on development of industries in the field of science and technology and ond control of indextorpinction in materials in the field of sectice and technology. Tsukuba is one of Japan's leading research and development hubs with over 20,000 researchers engaged in cutting edge research across a variety of fields working here. I believe that Tsukuba is the most suitable location in Japan for the Ministers' Meeting.

I sincerely hope that through the discussions here today, we will show the world a

marvelous vision of the future of science and technology and that this meeting will inspire great innovations to be made in Tsukuba.

"Promoting Interest in Science and Technology by the Younger Generation" Kenichi Ichihara, Mayor of Tsukuba City and Vice Chairman of the Promoting Council for the G7 Science and Technology Ministers' Meeting in Tsukuba,

Tsukuba City is the largest international science city in Japan, with 29 academic and research institutes and hundreds of research facility of private businesses There are 20,000 researchers in the city.

The City is designated by the national government as International Strategic Zone as well as a special zone for mobility robot experiments, and various society implementation and demonstrative experiments have been conducted. In terms of smart city initiative, collaborative projects with other countries are now undertaken. I believe recognition of such endeavors has resulted in the selection of Tsukuba as a venue for G7 Science and Technology Ministers' Meeting.

It is my hope that the messages from leading scientists and Ministers from around the world will increase the interest in science and technology and intellectual pursuits among the younger generation who hold the future, and serve as a catalyst for successful careers on the global stage.

Part 2: Symposium

(1) Opening Remarks

"Running beyond the Frontier"

Dr. Leo Esaki (Director of Tsukuba International Congress Center, Nobel Lau-

When I was a freshman at the Tokyo Imperial University, Tokyo experienced unprecedented damages by incendiary bombing during the evening of March 9th through early morning of March 10th, 1945. It resulted in death of 100,000 people. I was bombed out of my lodging near the university, but to my surprise, Professor Tsutomu Tanaka started his Experimental Physics I class at 8 a.m. on the 10th of March, as though nothing had happened. We focused on taking notes, and were immersed in the world of physics. We were being taught about the academism of the Tokyo Imperial University, that learning had to be the top priority no matter what happened. This teaching has had a life-long influence on me

In a stable society, one tends to assume the future will be an extension of the present. However, in a revolutionary era, innovations, breakthroughs, and leaps in science form the future. This is where individual creativity plays a decisive role.

Intellectual capacities can be categorized into two areas: One is judiciousness, which is the capacity to analyze, understand, interpret and select the information obtained. The other is creativity. It is the capacity to create new ideas by capturing the essence and recognizing the substance, with rich imagination and clear vision.

The balance of two capacities changes with age. Imagination curve is at 100% around the age of 20, and reaches 0% at the age of 70. Judiciousness is at 0% at the age of 20, and increases to 100% at 70 years of age. The hyperbolic curves cross at around 45 years of age, indicating that this is about the time one reaches the peak

Many scientists including Einstein made significant discoveries and achievements before the age of 45. You could say these involved creativity. To cultivate creativity, which is important for science, we must support not only researchers who have

achieved success, but young researchers to achieve more creative results. Lastly, I'd like to introduce the five "Don'ts" for increasing one's creativity. This is not a sufficient condition for success, but I would urge you to use them as a guide-

- (1) Don't be restrained by conventional wisdom;
- (2) Don't get overly attached to an authority in your field;
- (3) Don't hold on to what you don't need. Only save information that is truly vital; (4) Don't avoid confrontation to pursue your belief; and
- (5) Don't lose fresh sensitivity and endless curiosity.

I would like to emphasize these five points.

(2) Keynote Address 1

"Role of basic research in the development of science and technology" Dr. Makoto Kobayashi, Professor Emeritus of High Energy Accelerator Research Organization, Nobel Laureate

The development of science is not anticipated in advance. They often emerge unexpectedly, from accumulation of basic research. They suddenly emerge without any expectation and evolve; such is scientific technology

expectation and evolve; such is scientific technology.

My research field is high energy physics, which is a typical example of basic research. Ordinary matters are made of three elementary particles; electron, proton, and neutron. High energy physics observe and study the "behaviors" of elementary particles using an equipment (facility) called the high energy accelerator. We are aiming to understand the composition of ordinary matters and the universe, or the

fundamental parts of natural laws through our research.

Basic research is not directly useful for daily life. However, various tools that enrich our lives were produced through combination of scientific knowledge provided by basic research. There are various fields of science, and basic research conducted in each field, playing a role in accumulating knowledge on a daily basis and expanding the horizon of science, making it a robust system.

Human beings created new science and technology through combination of a variety of scientific knowledge founded on basic research. Each field of science is mutually

資料編 第1章 G7 茨城・つくば科学技術大臣会合の開催

related and they form a huge system as a whole. Therefore, scientific development must be promoted as a total system, by balancing basic research and applied sci-

Today, we are faced with many social issues such as global warming and epidemics, and there is significant expectation that these issues be solved with scientific knowledge. Also, industries require advanced technology based on cutting-edge science. A lot of investment is made in the field of science, but much of the emphasis is on direct usefulness and effectiveness for the society.

However, too much focus on applied science in seeking direct results may create the risk of distorting proper development of science, and loss of diversity in science. There must be a balance between applied science and basic research. The fruit of basic research is not easily measured. However, funding should not be cut on the ground of the difficulty of evaluation.

Science and technology should be promoted based on correct understanding of the relationship between science and society, with a long-term perspective.

(3) Keynote Address 2

"The future society with robot suit HAL®"

Giving Rise to Social Innovation with Innovative Cybernic System - Robot Suit HAL® for the Future

Dr. Yoshiyuki Sankai, Professor at the University of Tsukuba, Program Manager of the Cabinet Office's ImPACT program Human society started as hunter-gatherer society, then evolved into agrarian society.

ety, industrial society, and to IT society. The foundation of the fifth and next society, "Society 5.0," will be cybernic technologies.

Cybernic technology aims to fuse the human brain information with a wide range of latest technologies including robotics, and is expected to be applied to various areas including health care, welfare, industrial, and everyday life.

For example, a patient who has suffered damages to the nervous system or limb due to illness or accident resulting in impediment to motor reflexes can use cybernic technology to re-establish communication of signals between the brain and the musculoskeletal system to restore movement (functional restoration). Automation and labor-saving could reduce the workload in nursing care. In industrial areas such as factories and distribution, use of robot suits will ease handling of heavy items, and employees will have a lighter load. It is also being utilized in the area of pre ventative medicine, for example, by minimizing devices for measuring high blood pressure and heart function.

With the aging of the population on a global basis, the social cost of nursing, health care and welfare is becoming a significant issue. Cybernics technologies can contribute to resolving such issues. By promoting social innovation, I am aiming to realize "Society 5.0." This is not only for Japan. There is international collaboration and business development in the US, Germany and Europe.

Our company has a vision of constructing a cybernic city. The idea is to create a

city with cybernic technologies installed. A robot will buy something and deliver it to your home. A variety of devices perform work at nursing care homes. A robotic chair can also be created. The possibility is endless.

We would like to create such a society by developing the next generation technology. I believe that technology is important to human society, just like basic research.

(4) Ministers' Speech

◆ "Aiming to reinforce the abilities of researchers and foundations of knowl-

Aiko Shimajiri, Minister of State for Science and Technology Policy

In Japan, the Fifth Science and Technology Basic Plan is being implemented from April 2016. The Basic Plan features reinforcing the fundamentals of STI as one of the core pillars, noting strengthening of abilities of the researchers and foundation of knowledge as important policy issues.

Strengthening of human resources aims to promote securing and training diverse professionals who will play an important role in the future of STI, as well as career advancement for women. In particular, a target has been set to increase the ratio of women among newly recruited researchers in the field of natural science to 30% within five years.

For strengthening the foundation of knowledge, promotion of international joint-research and establishment of world-class research facilities have been listed as significant initiatives. Tsukuba is an area where the entire region possesses such function. It is expected to attract leading researchers in Japan and from overseas, to engage in leading-edge research activities in a superior research environment, and also in promoting training in the relevant fields.

◆ "Promotion of Further International Cooperation" Johanna Wanka (Minister for Education and Research, Germany)

Greek philosopher Socrates said, "let him who would move the world, first move himself." I believe this quote still has significance in our world today.

We are facing various issues including global warming and digitalization. We need people who have ideas that lead to resolution of these issues, people who seek to move the world. We need joint international activities more than ever.

G7, as a group of rich industrial nations, has responsibility on global issues. I believe the industrial nations can contribute to the whole world by securing a response on these issues.

In this context, the G7 Science and Technology Meeting should be held regularly, and large research facilities should be internationalized to promote joint-research and joint-use.

To resolve global problems together, younger people must gather experience in various countries. I would like to further promote exchange between the younger generations in Japan and Germany.

◆ "Creating Next Generation Leadership through G7 Partnership"

Kirsty Duncan, Minister of Science, Canada

Japan and Canada have close relationship in the area of SEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics), as can be seen by the joint receipt of Nobel Prize by Dr. Kajita from the University of Tokyo and Dr. McDonald from Queen's University, and the meticulous partnership between KEK (High Energy Accelerator Research Organization) and TRIUMF laboratory in Canada.

In Canada, there are scientific innovation initiatives, as can be seen in the joint research on automotive batteries conducted by a university and car manufacturer; acceleration in the research of Huntington's disease; and CCGS Amundsen, a research icebreaker.

G7s younger generations have a great ability; that they can become the leader in scientific and technological innovation. I believe international research collaboration can be established through bilateral and multilateral partnership platforms

"Scientific Innovation and 'Inclusion'"

▼ Sterning innovation and inclusion Claire Durkin, Director, International Knowledge and Innovation (Global), Department for Business, Innovation and Skills, UK

To promote scientific innovation, we must communicate mutually, and share openly. Sharing should be not only between the nations, but also between generations. G7 meetings have the capacity to make this possible.

The concept of "inclusion" was adopted in the agenda and communique for this

meeting. It is an approach to provide the fruit of scientific innovation for the benefit of not only the G7 nations, but of everyone in the society. The vision to recognize and support not only the patients but also the carers who tend to be forgotten, is new and beautiful.

Basic problems such as food, water and health exist globally. It is important to resolve various needs on earth by utilizing resources and wisdom that each country possesses, and to offer a helping hand to other countries in an integrated and inclusive manner.

◆ "How to cultivate tomorrow's leader in science"

Najat Vallaud-Belkacem, Minister of National Education, Higher Education, and Research, France

We are facing a significant paradox in the area of science and technology. Today, science and technology is essential for daily life. However, despite its accessibility and importance, everyone thinks science and technology is not attractive. Less people are pursuing a career in the field of scientific research.

Research and innovation is necessary for modern society, which is laden with myriad of problems. It is important to attract young people to research, and to cultivate resources to become tomorrow's leaders in science. Efforts must be made at various levels to make science a value for the society.

As part of this, measures must be taken against gender discrimination. Female researchers only comprise 28% globally. In France, female researchers in the field of science and engineering account for less than 25%. To utilize women's inspiration in the field of science, the number of female researchers and engineers must be increased.

We must draft policies to provide equal opportunities, treatment, and career outlook. In addition, an international network of female scientists, engineers, students and researchers in the field of science and engineering should be supported.

'Trends in US STEM education'

Jo Handelsman, Associate Director for Science at the White House Office of

Science and Technology Policy, US
In the US, there is an emphasis on STEM education, based on the understanding that STI is effective for creation of employment and new industries, and an initiative called "STEM for ALL" is being promoted.

Firstly, teaching methods were reformed. It has shifted from passive learning where

students just absorb and memorize information, to active learning where they spend time on the concepts, and engage in problem solving and exchange of questions.

Secondly, there is focus on computer science. Provision of computer science has been enhanced for children of all ages. Thirdly, we are eliminating subconscious prejudice. Discrimination and prejudice against women and minorities are lurking even among teachers and university professors, albeit subconsciously. We are committed to correcting these invisible prejudices.

I am very glad to see that women and STEM were included as significant agenda

for this meeting. I hope we continue to learn from each other, and search for new methods to promote STEM education.

(5) Submission of Proposals from the "Science and Technology High School

Participants from the "Science and Technology High School Summit" held in February 2016 ahead of the G7 Science and Technology Ministers' Meeting submitted proposals summarizing the discussion at the Summit to the representative of G7 Ministers. A representative of the students also made a speech.

Takuma Yabe, Meikei High School

"Can Science and Technology Bring Humanity Happiness?" This was the theme at the Science and Technology High School Summit held in February. Eight high school students from the Prefecture and 14 exchange students studying at University of Tsukuba had discussions on four sub-themes, "Medicine and Science and Technology," "New Energy," "Food and Science and Technology," and "Space Development of the Space Development of t opment and Engineering." We came to understand that development of science and technology will have sig-

nificant impact on each area; on the other hand, it does not necessarily bring happiness. Based on this, we wanted to ensure that technology brings true happiness to humanity, and prepared the following proposal.

Proposal 1: Realize a society where people around the world can benefit equally

from the fruit of development of science and technology.

Proposal 2: Enhance education on science and technology for the young people around the world who will lead the future, to enable correct understanding and appropriate use of science and technology. By promoting collaboration between scientists and the society, and by enhancing ed-

ucation, deeper understanding of science and technology and the use for social benefit should be achieved. To do this, it is necessary for people in every society and every country to receive basic education on science and technology, and to respect

(6) Panel Discussion

Theme: Internationally open research organizations deliver break-through for science and technology- a message for the next generation -(Moderator)

Yuko Harayama (Executive Member, Council for Science, Technology and Innovation)

(Panelists)

Motoko Kotani (Executive Member, Council for Science, Technology and Innovation) Professor Hitoshi Murayama (The University of Tokyo, Kavli Institute for the Physics and Mathematics of the Universe)

Professor Masashi Yanagisawa (University of Tsukuba, International Institute for Integrative Sleep Medicine)

Professor Kenichiro Itami (Nagoya University, Institute

of Transformative Bio-Molecules)

Dr. Jonathan Dorfan, President of Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University

"What it means to be a scientist"

Yuko Harayama (Executive Member, Council for Science, Technology and In**novation)**What is your image of a scientist? Conducting experiments and research as a team

at a research laboratory. Making arrangements to secure research funding and headcount.

Some people may think that Einstein was a lone-wolf who conducted his research alone, but nowadays, it is very rare to engage in a research alone, and teamwork is key. Then, what does it mean to work in a team? You may need to exercise leadership while collaborating in a research. I would like to ask our panel how leadership is actually being exercised.

There may be cases requiring varieties of activities beyond laboratories. The counterparty may not be a scientist, but a regular person in the society, a regular citizen. For social innovation, you must step out to the world, beyond the group of researchers. There may be times when others provide you inspiration, or when others are inspired by you.

The purpose of this panel discussion is to provide the audience with a glimpse of the life of scientists in Japan through their experiences, activities, and daily musings, as a message to the young people.

"Mathematics is the key for accessing the universe"

Motoko Kotani (Executive Member, Council for Science, Technology and Innovation)

Galileo said that our universe is a grand book written in the language of mathematics. If you want to understand the mystery of the universe, you must understand mathematics. Eugene Wigner, a physicist, also said that "the existence of human beings has no relation to the universe, but mathematics, invented by human beings, provides the key to access the universe." This has been my motivation as a mathematician.

Today, the importance of mathematics has increased. New technologies like big data, AI, networks, control, and security, are all based on mathematics. In fact, I am a mathematician, but I work with a material scientist. A mathematician draws the dream, and material science realizes it. When a new material is created, our lives change, lifestyle values change, and a new culture is born. Mathematics and materi-

al science are together contributing to the society. I used to be satisfied without listening to the voices outside, until around 2006. I just wanted to create a new field of mathematics called discrete geometric analysis. Then I heard the voice of material scientists. They said that the new mathematics can bridge the micro and macro. I continue to conduct research with material scientists using mathematics, at the Advanced Institute for Materials Research, Tohoku University.

"Importance of experiencing the world" Professor Hitoshi Murayama (University of Tokyo, Kavli Institute for the Physics and Mathematics of the Universe)

I was born in Japan and grew up in West Germany. When I returned to Japan, I just could not fit in. In Japan, everyone was expected to act in the same manner, and sing the same songs. I was not satisfied with this. In addition, the research in the field that I was interested in was not well developed, so I moved to the University of California, Berkeley. Competition in the US is intense, but it is fair and individual ideas are respected. It is also easier to form a global network.

I left Japan once, but realized good things about Japan since then, and now I spend half my time in Japan and the other half in the US, as the Director of Kavli Institute for the Physics and Mathematics of the Universe at the University of Tokyo.

A scientist's role is to resolve problems that are shared by human beings. Where does the universe start, what destiny exists, what is it made of, what are its basic laws, where did we come from, things of that nature.

However, we must collaborate with people around the world, no matter where you came from. Believe in oneself, and look for an area that you are passionate about. Science is fun and exciting. It doesn't matter if you don't speak perfect English; I urge you to go abroad and gather experience outside of Japan.

"Find a good problem, not just solve any problem." Professor Masashi Yanagisawa (University of Tsukuba, International Institute for Integrative Sleep Medicine)

I was born in Japan, and graduated from the University of Tsukuba Medical School in 1985. Then I made the most important decision in my life; the decision to become a medical researcher, rather than a medical practitioner.

I was able to discover a molecule called endothelin at University of Tsukuba, and moved to a US research institution, recruited by Nobel Laureates Dr. Goldstein and Dr. Brown. I have been conducting research in the US since then. You could say that the US nurtured me.

I hadn't thought of returning to Japan at all, but I was invited to become the CAO of a large project by University of Tsukuba, and commuted between Texas and Tsukuba City for about five years, with experimental laboratories in both University of Texas and University of Tsukuba. This was a case of a sleep scientist suffering sleep deprivation from jet lags. Ultimately, I closed the laboratory in University of Texas in 2014 to return to Japan.

I would like to give some advice to the young people from this experience. Firstly, "identifying a good problem is actually more difficult than solving it." We are used to solving problems; however, it is more difficult to find the problem, and this is very important.

Secondly, I urge you to gather experience abroad. Live abroad for one year or ten years. By doing so, you will be able to understand things you could not see in Japan.

"Question yourself on uniqueness"

Professor Kenichiro Itami (Nagoya University, Institute of Transformative Bio-Molecules)

used to dislike chemistry, where you were forced to memorize facts and formulas When I was sixteen years old, I saw a beautiful molecule called benzene. I learned that the simple hexagonal molecule changes into various useful functional molecules, and thought for the first time that chemistry was creative

In addition, I loved super-cars, and seriously thought I'd synthesize a material to replace gasoline and name it "Itami." That was how I decided to pursue science. My motivation was to create a new molecule similar to gasoline. I decided my future like that

My advice to you is to be "unique." It may be important to get good scores at exams, go to good universities, write papers that win praises; but ultimately, the most important thing is whether or not you are unique. Always ask yourself this question. Most of the times, the answer will be "no." However, if you keep asking yourself, the day will come when the answer is "yes

"Three factors for innovation in science and technology" Dr. Jonathan Dorfan, President of Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University

Promotion of basic science and applied science is one of the important pillars for development of civilization and social stability. New knowledge will become the foundation of innovation, and innovation becomes the essential factor for economic growth and national security. It will also provide sustainable, global solutions to issues threatening the earth, such as the climate change, deteriorating environment, epidemics, and shortage of food and water. That is why it is important to nurture

I will list the three important factors for cultivating STI leaders. First factor is to create a supportive learning and research environment, and support young people to be independent, passionate, curious, and creative

Second factor is the significant role of a mentor. Young people need guidance, and mentors must play a sufficient role in this.

Third factor is for STI leaders to have authority to control funding to enable flexible investment. There should be freedom to allocate budget to research for which results cannot be predicted, or those that require time. Too many restrictions may risk freezing innovation.

[Q&A with the Audience]

Q1. Studying abroad will create problems with Japanese university entrance exams. I'm not sure if there are advantages to taking the risk in studying abroad.

A. If it makes taking entrance exams for Japanese university difficult, you should consider applying for a US university. You have to take such risks. A year is very short period in terms of your life. Also, requirement to follow certain steps to build a career only applies to Japan. You should learn that there are other worlds.

Q2. I believe not all should be left to self-initiative, and some guidance may be necessary to increase the total number of scientist; What are your thoughts?

A. You don't have to become a researcher after graduating from a university; to broaden your perspective as a person, you need different experiences. In which sense, studying the field of science will be such an experience.

[Closing Remarks]

Aiko Shimajiri, Minister of State for Science and Technology Policy

People create innovation, and by interacting beyond organizations and sectors, various knowledge will be fused together, to bring creation of a new value.

Development of human resources who will take the lead in the next generation of science and technology is an important issue for the world. I hope today's discussions have deepened your understanding of the significance of science and technology as well as the future of science and technology, and will become a catalyst for many young people to pursue careers in research, engineering, and industries that will take the lead in scientific innovation.

4 歓迎レセプション

参照 概要編 P 21

- (1) 実施主体: 内閣府、協議会
- (2) 日時: 平成28年5月15日(日)19:00~21:00
- (3)場所:ホテルグランド東雲 東雲の間
- (4)参加者:
 - ①各国・機関代表者

島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策) 日本

イタリア ステファニア・ジャンニーニ 教育・大学・研究大臣

カナダ カースティ・ダンカン 科学大臣

アメリカ ジョー・ハンデルスマン 科学技術政策局科学担当次長

イギリス クレア・ダーキン ビジネス・イノベーション・技能省 グローバル科学・イノベー ション・教育 担当局長

ドイツ ヨハンナ・ヴァンカ 教育研究大臣

カルロス・モエダス 研究・科学・イノベーション担当欧州委員 ΕU

②地元ホスト

橋本 昌 茨城県知事(G7茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会 会長) 市原 健一 つくば市長 (G7 茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会 副会長)

- ③各国・機関随行者、招待者等
 - ·各国·機関随行者 約40名
 - ・地元招待者 約200名
- (5) 各国・機関代表者出迎え: (ホテルグランド東雲 玄関)

橋本知事、市原市長

- (6)あいさつ
 - ・歓迎あいさつ 島尻大臣、橋本知事
 - ヴァンカ大臣 (独) ・あいさつ
 - 各国・機関代表者、橋本知事、市原市長 鏡割り
 - ・乾杯 市原市長
- (7)アトラクション:
 - ①三味線演奏 本條 秀太郎氏(三味線演奏家・作曲家・茨城県潮来市出身)
 - ②ライブ書道 上平 梅径氏(書道家) 上平 真央氏(書道家)
- (8)メニュー:
 - 1)洋食
 - ・茨城県産オードブルバリエ
 - ・茨城県産豆の香のブール
 - ・ 茨城県産海の幸のブイヤベース

 - 艫の古内茶蒸し
 - ・奥久慈シャモと茨城県産野菜のシチュー
 - ・味麗豚のグリエ香草風味

- ・常陸牛のローストビーフ
- ・ベジタリアンメニュー 茨城県産フレッシュ野菜の サラダバー
- ・鉾田産ちゅう太郎トマトと奥久慈茄子のグラタン・・ベジタリアンメニュー 江戸崎南瓜と豆乳のポター ジュ
 - ・ベジタリアンメニュー 野菜のグリル香草風味

②中華

- ・ 鹿島灘産はまぐりの紹興酒づけ レモン風味
- ・つくば産きのことフカヒレの煮込み 上海蟹みそ風味 ・美明豚と椎茸の肉詰めとピーマン焼売
- ・ロブスターのチリソース
- ・茨城県産真鯛の姿蒸し 葱油X〇醤ソース
- ・かすみがうら産鯉と野菜の煮込
- ・ 奥久慈シャモの山椒香り蒸し 棒棒鶏ソース
- ・ローズポークと土浦産蓮根の甘酢ソース
- ・茨城県産牛フィレと彩り野菜の炒め
- ・大洗産シラスと雲丹入りチャーハン
- ・ベジタリアンメニュー 茨城県産野菜のせいろ蒸し
- ・ベジタリアンメニュー 揚げ豆腐 茨城県産野菜と きのこの中華あん
- ・ベジタリアンメニュー 茨城県産野菜の湯葉春巻

③和食

- ・ 茨城県産海の幸盛合せ
- ・ 鹿島灘産はまぐりの浜焼き
- ・ローズポークと土浦産蓮根のやわらか煮
- ・江戸崎かぼちゃ小倉煮

- ・茨城うまいもの彩り揚物・焼物
- ・ひぬまやまとしじみのみそ汁
- ・ 茨城海の幸握り寿司 (実演付き)
- ・ベジタリアンメニュー 海苔巻寿司

④デザート

- ・茨城県産苺のプリン
- ・ヨーグルトプリン(つくば産ブルーベリージャム、 稲敷産イチジクジャム、高萩産ほおずきジャム)
- ・鉾田産メロンのブリュレ

- ・笠間産栗のモンブラン
- ・茨城県産フルーツ盛合せ

⑤ドリンク

- · 県産日本酒(41酒蔵46種)
- ・キリンビール 取手づくり
- ・アサヒスーパードライ
- ・ツインピークス スパークリング 2014
- ・ツインピークス 白 2013
- ・ツインピークス 赤 2013
- ・葡萄の城プレステージ シャルドネ
- ・葡萄の城プレステージ カベルネソービニヨン
- ・甲州きいろ香 2015
- · 穂坂マスカットベリー A
- ・佐竹畑収穫 シャルドネ
- ・奈良崎収穫 メルロー
- · 百年梅酒

- ・竹鶴17年ピュアモルト
- ・富士山麓ブレンデッド18年
- ・かめつぼ漫遊記 芋
- ・漫遊記そば赤土
- ·琉球泡盛 海乃邦 10年貯蔵古酒 (43度)
- ·琉球泡盛 海乃邦 10年貯蔵古酒 (25度)
- ・ベルファーム 生絞りジュース (メロン・巨峰・ト マト)
- ・オレンジジュース
- ウーロン茶
- ・キリンフリー
- ・ミネラルウォーター

⑥実演ブース

- ・さしま茶手もみ茶(さしま茶手揉保存会)
- ・常陸秋そば(いばらき蕎麦の会)
- ・江戸崎かぼちゃ(JA稲敷)
- ・福来ラーメン(福来ラーメン開発プロジェクト)

<歓迎レセプションで使用した県産品の一例(市町村別)>

市町村名	飲物	食べ物・食材
水戸市	大吟醸一品嚼梅(吉久保酒造)、大吟醸副将軍、漫遊記(明利酒類)、純米吟醸三ツ扇(瀧田酒造店)	柔甘ねぎ
日立市	純米吟醸玉の雫(嶋崎酒造)、大吟醸大観秘蔵酒(森島酒造)、二人舞台大吟醸(宏和商工日立酒造工場)、大吟醸富久心(椎名酒造店)	
土浦市		蓮根、豆の香
古河市	御慶事斗壜取り大吟醸(青木酒造)	
石岡市	白菊大吟醸(白菊酒造)、大吟醸渡舟(府中誉)、大吟醸筑 波万葉の峰(石岡酒造)	穂の香卵、ミニキャロット
結城市	武勇秘蔵古酒、武勇大吟醸しずく酒(武勇)、結ゆい純米 吟醸やまだにしき(結城酒造)	
龍ケ崎市		ファーストトマト
下妻市		きゅうり
常総市	一人娘純米大吟醸(山中酒造店)、大吟醸紬美人(野村醸造)、純米吟醸京の夢(竹村酒造店)	白菜、ズッキーニ
常陸太田市	松盛純米大吟醸祥(岡部)、純米吟醸剛烈(剛烈富永酒造店)、大吟醸光圀(檜山酒造)、日乃出鶴純米吟醸(井坂酒造店)、純米吟醸富久酔大吊橋(太田銘醸)	常陸秋そば、ヨーグルト
高萩市		ほおずき
北茨城市		ジャンボ椎茸、あんこう
笠間市	花薫光、生酛純米大吟醸郷乃誉(須藤本家)、松緑大吟醸 (笹目宗兵衛)、大吟醸東海(武藤酒類醸造)、稲里純米大 吟醸山田錦(磯蔵酒造)	くり極み
取手市	純米金門(金門酒造)、君萬代プレミアム大吟醸(田中酒 造店)、キリン一番搾り取手づくり(キリンビール)	ハーブ
牛久市	葡萄の城プレステージ(牛久ワイナリー)	大根
つくば市	霧筑波古酒、大吟醸知可良(浦里酒造店)、男女川熟成酒、 男女川雫酒(稲葉酒造)、ツインピークス(つくばワイナ リー)、ジュース(ベルファーム)	福来ラーメン、北条米、ブルーベリー、キャビア
ひたちなか 市		鮮魚一式 (磯崎漁港)、奥久慈なす
鹿嶋市		蛤(鹿島灘漁協)
潮来市	愛友大吟醸(愛友酒造)	
守谷市	アサヒスーパードライ (アサヒビール)	
常陸大宮市	酔富純金箔入純米吟醸(酔富銘醸)、大吟醸久慈の山(根本酒造)	
那珂市	月下香、月下香 Vintage (木内酒造)	
筑西市	純米大吟醸来福(来福酒造)	こだますいか、味麗豚
坂東市	さしま茶手もみ茶	ねぎ、レタス、サニーレタス、青梗菜
稲敷市		江戸崎かぼちゃ、いちじく
かすみがう ら市		鯉、わかさぎ、川海老、しらうお
桜川市	純米吟醸桜川(堀川酒造店)、大吟醸公明(村井醸造)、花の井純米吟醸(西岡本店)	
神栖市		パプリカ、ピーマン

市町村名	飲物	食べ物・食材
行方市	東竹乃葉大吟醸(竹乃葉酒造)	キストマト、みず菜、かんしょ、やよい姫、 美明豚
鉾田市		イバラキング、クインシーメロン、ちゅう 太郎トマト、パプリカ、人参
つくばみら い市		切りみつば、トマト
小美玉市		大根
茨城町		ひぬまやまとしじみ、常陸牛、ローズポーク
大洗町	純米大吟醸月の井書(月の井酒造店)	鮮魚一式(大洗漁港)
城里町		古内茶、ななかいの里こしひかり
東海村		干しいも
大子町	大吟醸四度の瀧(家久長本店)	奥久慈しゃも
美浦村		マッシュルーム
阿見町		ヤーコン
河内町		なす
八千代町		白菜
五霞町		キューピーマヨネーズ
境町	大吟醸徳正宗(萩原酒造)、さしま茶手もみ茶	
利根町		ブロッコリー、アイスプラント

- ※なお、伊勢志摩サミットにおいて、次の日本酒が提供された。
 - ・武勇大吟醸 秘蔵大古酒(武勇) ・純米大吟醸 花薫光(須藤本家) ・霧筑波 3 0 年熟成酒(浦里酒造店)
 - ·大吟醸古酒月下香 Vintage1986年(木内酒造)

(9)運営体制

業務内容	所属	人数	業務内容詳細				
■△/★公托	内閣府	2名	○△壮竺珊				
■全体統括 	協議会	9名	一〇全体管理				
■制作·運営管理	JTB	3名	○全体構成·演出·制作管理				
	内閣府	8名	○会場内でのアテンド				
■来賓·登壇者対応	協議会	3名	○主催、来賓出席者対応				
	JTB	2名	○控室対応				
	内閣府	1名					
■メディア対応	協議会	8名	○メディアへの事前説明とアテンド				
	JTB	1名					
■交通手配、管理	JTB	2名	○移動車両の運行管理				
■警護関連	茨城県警察	適宜	○会場内・外の要人警護				
■警備関連	JTB	12名	○会場内警備、金属探知機手配·運営				
■進行·運営業務	JTB	12名	○進行業務、司会·通訳、会場内来場者誘導 等				
■施工·装飾	JTB	10名	○タイトル看板、パンチカーペット設置 等				
■テクニカル	ホテルグランド東雲	2名	○会場管理、音響、照明機材対応				
■受付業務	JTB	12名	○受付·ID のお渡し 等				
■記録(スチール)	JTB	4名	○記録スチールの撮影				
■通訳	協議会	7名	○日英通訳				
■会場運営手配·管理	ホテルグランド東雲	7名	○会場手配、飲食物手配、配膳業務 等				

5月16日(月)

1 地元小学生による歓迎の花束贈呈

参照 概要編 P 24

(1)実施主体:内閣府、つくば市

(2) 日時: 平成28年5月16日(月) 9:40~9:50

(3)場所:つくば国際会議場 中ホール300 (4)参加者:各国大臣·機関代表者 8名

つくば市内小学生 16名

(春日学園: 2名、竹園西小: 2名、吾妻小: 2名、竹園東小: 2名、桜南小: 1名、手代木南小: 1名、 二の宮小:1名、葛城小:1名、東小:1名、松代小:1名、並木小:1名、九重小:1名)

2 G 7 茨城・つくば科学技術大臣会合

参照 概要編 P 25

(1) 実施主体: 内閣府

(2) 日時:平成28年5月16日(月)10:00~15:00

(3)場所:つくば国際会議場 中ホール300

(4)議事:

①冒頭あいさつ及び趣旨説明(9:50~9:55) 島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

②スペシャルレクチャー'Society 5.0'(9:55~10:00) 中西 宏明 (株) 日立製作所 取締役会長代表執行役

③セッション1(10:00~11:10)

1)議題: "Global Health-Health care and Science Technology" 「グローバルヘルス - 保健医療と科学技術」

2) ゲストスピーカー:山海 嘉之(大) 筑波大学教授/サイバニクス研究センター長、 CYBERDYNE(株)社長/CEO、内閣府ImPACTプログラムマネージャー

④セッション2 (11:10~12:30)

1)議題:"Gender and Human Resource Development for STI" 「科学技術イノベーションの推進に向けての女性の参画拡大や次世代の人材育成」

2) ゲストスピーカー: ランジニ・バンディオパディエ ラマン研究所 准教授/グローバル ヤングアカデミー

⑤セッション3 (12:30~14:30)

1)議題:"The Future of the Seas and Oceans" 「海洋の未来」

2) ゲストスピーカー: 白山 義久 (国研) 海洋研究開発機構 理事 河野 健(国研)海洋研究開発機構 研究担当理事補佐

⑥セッション4 (14:30~15:00)

1)議題: "Clean Energy - Developing Innovative Energy Technology" 「クリーンエネルギー - 革新的なエネルギー技術の開発」

2)スピーカー:中西 宏典 内閣府大臣官房審議官(科学技術・イノベーション担当)

(5)運営体制

業務内容	所属	人数	業務内容詳細			
■全体統括	内閣府	4名	○全体管理			
■運営管理	JTB	2名	○運営管理			
■スピーカー対応	内閣府	4名	○送迎、事前説明、会場内でのアテンド			
■スピーカー対応	JTB	1名	○控室対応、アテンド			
	内閣府	1名				
■メディア対応	協議会	8名	○メディアへの事前説明とアテンド			
	JTB	1名				
■交通管理	JTB	2名	○移動車両の配車・運行管理			
■警護関連	茨城県警察	適宜	○会場内・外の要人警護			
■警備関連	JTB	63名	○会場内警備、金属探知機手配·運営			
■施工·装飾	JTB	10名	○バックパネル、タイトル看板設置等			
■テクニカル	つくば国際会議場	適宜	○会場管理、映像、音響、照明機材対応			
■記録(スチール)	JTB	2名	○記録スチールの撮影			
■会場運営手配·管理	つくば国際会議場	1名	○備品什器類、同通機材の手配確認、会場管理			

3 オフィシャルランチ

参照 概要編 P 26

- (1)実施主体:内閣府
- (2) 日時: 平成28年5月16日(月) 12:50~13:50
- (3)場所:つくば山水亭
- (4)参加者: 各国・機関代表8名各国・機関随行者22名ゲストスピーカー2名

(5)通常メニュー

1)前菜

- ・つくば市産 蒸し鳥、根三ツ葉 ポン酢ジュレ、
- ・霞ヶ浦産 手長海老 筍 独活 木の芽味噌和へ

2向附

・常磐沖産 平目・牡丹海老、鮪 鯵たたき 妻色々

③強肴

・茨城県産 常陸牛カットステーキ、つくば市産 椎茸、鉾田市産 パプリカ、アスパラ、和 風オニオンソース

④蒸し物

- ・奥久慈産 大子湯葉茶椀蒸し 豆乳庵掛け
- ·那珂湊産 雲丹、穴子 海老 柚子

⑤冷煮物

- ・合鴨牛久ワインロース煮
- ・筑西市産 スーパーフルーツトマト、冬瓜 小茄子 いんげん 水辛子

⑥天麩羅

- ・霞ヶ浦産 公魚・蓮根
- ・行方市産 紅こがね エシャレット、海老
- · 茨城県産 稲穂

⑦酢の物

・新蓴菜酢、ひたちなか市 鮑酒蒸し、大和芋

⑧食事

・つくば市産 北条米

9香の物

・二点盛り 胡瓜・らっきょ

10止椀

・大涸沼産 大和しじみ白味噌仕立て、水戸市産 やわらか葱 柚子

⑪水菓子

- ・鉾田市産 イバラキングメロン
- ・稲敷市産 かぼちゃプリン
- · 茨城県産 常陸大黒豆
- ・大子りんご蒟蒻

⑫奥久慈茶

(6) 魚抜きメニュー

①前菜

- ・つくば市産 蒸し鳥根三ツ葉ポン酢ジュレ 筍と独活の木の芽味噌和へ
- · 天豆甘煮

②向附

・つくば市産 味麗豚冷しゃぶサラダ、茨城県産 白髪葱、人参 セロリ 大葉 花穂 胡麻 たれ

③強肴

- ・ 茨城県産 常陸牛カットステーキ、つくば市産 椎茸、鉾田市産 パプリカ、アスパラ
- ・和風オニオンソース

④蒸し物

・奥久慈産 そぼろ肉湯葉茶椀蒸し、豆乳庵 三ツ葉

⑤冷煮物

・合鴨牛久ワインロース煮、筑西市産 スーパーフルーツトマト、冬瓜 小茄子 いんげん 水辛子

6天麩羅

・つくば市産 つくば茜鶏天ぷら、行方市産 紅こがね、エシャレット、霞ヶ浦産 蓮根

⑦酢の物

・蓴菜 ヤングコーン 酢取り茗荷

⑧食事

・つくば市産 北条米

9香の物

・二点盛り 胡瓜・らっきょ

⑩止椀

・白味噌仕立て 打ち野菜 うず巻麩

11)果物

- ・鉾田市産 イバラキングメロン
- ・稲敷市産 かぼちゃプリン

- ・大子りんご蒟蒻
- 迎 奥久慈茶
- (7) ベジタリアンメニュー
 - 1)前菜
 - ・ズッキーニ ヤングコーンジュレ掛け 独活木の芽味噌和へ、天豆密煮
 - 2向附
 - ・奥久慈大子産 刺身蒟蒻、長芋、アボカド
 - ③焼物
 - ・丸茄子チーズ田楽焼き、はじかみ
 - ④生野菜 (茨城県産野菜)
 - ・坂東市産 レタス、鉾田市産 パプリカ、行方市産 水菜、八千代市産 白菜、レモンドレッシング
 - ⑤冷煮物
 - ・冬瓜、筑西市産 スーパーフルーツトマト、いんげん、水辛子、蓮根
 - ⑥蒸し物
 - ・茶籠蒸し、つくば市産 きのこ、江戸崎産 南瓜、人参、いんげん、馬鈴薯、もやし、酢醤油
 - **⑦酢肴**
 - ·新蓴菜酢
 - ⑧食事
 - ・つくば市産 北条米
 - ⑨香の物
 - ・二点盛り 胡瓜・らっきょ
 - ⑩止椀
 - ・野菜の玉子とじ
 - ①果物
 - ・鉾田市産 イバラキングメロン
 - ・稲敷市産 かぼちゃプリン
 - ・大子りんご蒟蒻
 - ⑫ 奥久慈茶
- (8)運営体制

業務内容	所属	人数	業務内容詳細				
■全体統括	内閣府	2名	○会体管理				
■土1平前位	協議会	3名	│○全体管理				
■運営管理	JTB	2名	○運営管理				
	内閣府	4名	○会場内でのアテンド				
■来賓対応	協議会	2名	○主催、来賓出席者対応				
	JTB	1名	○アテンド				
■交通手配·管理	JTB	1名	○移動車両の配車・運行管理				
■警護関連	茨城県警察	適宜	○会場内・外の要人警護				
■進行·運営業務	JTB	5名	○進行管理、演奏者等				
■備品手配	JTB	2名	○国旗手配 等				
■記録(動画)	JTB	2名	○記録動画の撮影				
■記録(スチール)	JTB	2名	○記録スチールの撮影				
■会場運営手配·管理	つくば山水亭	適宜	○会場手配、飲食物手配、配膳業務等				

4 知事、市長による記念品贈呈

参照 概要編 P 27

- (1) 実施主体:協議会
- (2) 日時: 平成28年5月17日(火) 15:00~15:10
- (3)場所:つくば国際会議場 3階ホワイエ、中ホール300
- (4)記念品概要:
 - ①橋本知事より

笠間焼の銀彩一輪挿し(寺本 守作) 淡水真珠ネックレス(明恒パール)

②市原市長より

つくば市オリジナル木版画「虹立つ筑波」(原画:藤島 博文作 木版画:渡辺木版)

5 フォトセッション

参照 概要編 P 28

- (1) 実施主体: 内閣府
- (2) 日時: 平成28年5月16日(月) 15:10~15:15
- (3)場所:つくば国際会議場 エントランスホール
- (4)参加者:※写真の並び順(右より)

フランス ナジャット・ヴァロー=ベルカセム 国民教育・高等教育・研究大臣

カナダ カースティ・ダンカン 科学大臣

イタリア ステファニア・ジャンニーニ 教育・大学・研究大臣

日本 島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

ドイツ ヨハンナ・ヴァンカ 教育研究大臣

イギリス マーク・ウォルポート 主席科学顧問

アメリカ ジョー・ハンデルスマン 科学技術政策局科学担当次長

EU カルロス・モエダス 研究・科学・イノベーション担当欧州委員

6 大臣向けエクスカーション

参照 概要編 P 29

- (1) 実施主体: 内閣府
- (2) 日時: 平成28年5月16日(月) 15:15~18:30
- (3) 視察先:
 - ·(国研) 産業技術総合研究所(AIST)

AIST-CNRSロボット工学研究ラボ (IRL)

・(国研) 物質・材料研究機構 (NIMS)

寺部一弥研究室 (原子スイッチ)

吉川元起研究室(ナノメカニカルセンサー)

·(一財) 日本自動車研究所(JARI)

TOYOTA i-ROAD等超小型モビリティ試乗

(4)参加者:

①各国・機関代表者

日本 島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

イタリア ステファニア・ジャンニーニ 教育・大学・研究大臣

カナダ カースティ・ダンカン 科学大臣

フランス ナジャット・ヴァロー=ベルカセム 国民教育・高等教育・研究大臣

アメリカ ジョー・ハンデルスマン 科学技術政策局科学担当次長

イギリス マーク・ウォルポート 主席科学顧問

ドイツ ヨハンナ・ヴァンカ 教育研究大臣

EU カルロス・モエダス 研究・科学・イノベーション担当欧州委員

②各国・機関随行者25名

※イタリアは(一財)日本自動車研究所(JARI)のみ参加

(5)運営体制

業務内容	所属	人数	業務内容詳細				
■全体統括	内閣府	2名	- ○全体管理				
■土件机拍	協議会	3名	○土仲旨년				
■制作・運営管理	JTB	6名	○全体進行·制作·運営管理				
	内閣府	8名	○エクスカーション先でのアテンド				
■来賓対応	協議会	2名	○主催、来賓出席者対応				
	JTB	1名	□○アテンド				
	内閣府	1名					
■メディア対応	協議会	8名	○メディアへの事前説明とアテンド				
	JTB	1名					
■交通手配·管理	JTB	6名	○移動車両の配車・運行管理				
■警護関連	茨城県警察	適宜	○移動中、会場内・外の要人警護				
■斡旋·運営業務	JTB	7名	○バス斡旋・運営業務 等				
■施設案内·説明	各施設	適宜					
■ルピロ文米と3・1元4月	協議会	3名	- ○研究施設案内、内容説明等 				
■記録(スチール)	JTB	2名	○記録スチールの撮影				

7 晚餐会

参照 概要編 P 31

- (1) 実施主体: 内閣府
- (2) 日時: 平成28年5月16日(月) 19:00~21:00
- (3)場所:オークラフロンティアホテルつくば アネックス 「昴 東・中・西の間」
- (4)参加者:

「昴 東の間」各国・機関代表者等 10名

日本 島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

イタリア ステファニア・ジャンニーニ 教育・大学・研究大臣

カナダ カースティ・ダンカン 科学大臣

フランス ナジャット・ヴァロー=ベルカセム 国民教育・高等教育・研究大臣

アメリカ ジョー・ハンデルスマン 科学技術政策局科学担当次長

イギリス マーク・ウォルポート 主席科学顧問

資料編 第1章 G7 茨城・つくば科学技術大臣会合の開催

ドイツ ヨハンナ・ヴァンカ 教育研究大臣

EU カルロス・モエダス 研究・科学・イノベーション担当欧州委員

日本 原山 優子 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員

元 (大) 東北大学大学院工学研究科教授

日本 中西 宏典 内閣府大臣官房審議官(科学技術・イノベーション担当)

「昴 中の間」各国随行員 56名

「昴 西の間」日本随行員 24名

(5)メニュー

①大臣用メニュー

- ・真鯛の昆布マリネとあわびの取り合わせ フィザリスとメスクラン添え バージルオイルとつくば産キャビア飾り
- ・奥久慈しゃものコンソメ トリュフ風味
- ・茨城県産平目のポロ葱・ベーコン巻 北条米のリゾット添え 粒マスタードソース
- ・霧筑波"大吟醸30年古酒"のグラニテ
- ・常陸牛フィレ肉のロティ

江戸崎南瓜のマーケル風と土浦産蓮根のフリット添え 赤ワインソース

- ・茨城県産メロン"イバラキング"のソーテルヌワインゼリー寄せ レモンの香
- ・パンとバター
- ・コーヒー又は紅茶
- ・ミニャルディーズ

②ベジタリアン - グルテンフリーメニュー

- ・胡麻豆腐 フルーツトマトとムスクラン添え バルサミコ酢ソース
- ・グリンピースのポタージュ
- ・レンズ豆とホワイトアスパラガスとラタトゥイユのミルフィーユ 江戸崎南瓜のフライと赤パプリカのソース添え
- ・パイナップルのグラニテ
- ・野菜ときのこのリゾット トリュフの香り
- ・茨城県産メロン"イバラキング"と季節のフルーツ盛り合わせ
- ・グルテンフリーブレッドとオリーブオイル
- ・コーヒー又は紅茶
- ・ミニャルディーズ

③魚抜きメニュー

- ・オードブル盛り合わせ
- ・奥久慈しゃものコンソメ トリュフ風味
- ・仔羊背肉の網焼き ラタトゥイユ添え トマトソース
- ・霧筑波"大吟醸30年古酒"のグラニテ
- ・常陸牛フィレ肉のロティ
- 江戸崎南瓜のマーケル風と土浦産蓮根のフリット添え 赤ワインソース
- ・茨城県産メロン"イバラキング"のソーテルヌワインゼリー寄せ レモンの香
- ・パンとバター
- ・コーヒー又は紅茶

・ミニャルディーズ

④ドリンクメニュー

- ·霧筑波 知可良 3年古酒
- ・男女川 すてら 雫酒
- ・白ワイン シャトー・メルシャン 甲州小樽仕込み 2012年
- ・赤ワイン シャトー・メルシャン 長野メルロー 2013年
- ·琉球泡盛 海乃邦 10年貯蔵古酒(43度)
- ·琉球泡盛 海乃邦 10年貯蔵古酒(25度)
- ・オレンジジュース

(6)記念品(島尻大臣より各国・機関代表者へ)

・上平 梅径 筆セット

(硯 "羅紋硯"、硯箱 "南天"、小筆、大筆、文鎮、墨、墨液、半紙セット、下敷き、青霄バッグ、上平 梅径 揮毫ガラス作品)

・江戸切子 ぐいのみ「菊花」「桜」(カガミクリスタル)

菊花: イタリア、カナダ、フランス、EU 桜 : 日本、イギリス、アメリカ、ドイツ

(7)運営体制

			1
業務内容	所属	人数	業務内容詳細
■△什然任	内閣府	2名	○△仕笠田
■ 全体統括 	協議会	3名	- │○全体管理 │
■制作·運営管理	JТВ	2名	○全体構成·演出·制作管理
■来賓·出席者対応	内閣府	10名	○会場内でのアテンド ○主催、来賓出席者対応
	JТВ	1名	○アテンド
	内閣府	1名	
■メディア対応	協議会	8名	○メディアへの事前説明とアテンド
	JТВ	1名	
■交通手配·管理	JТВ	2名	○移動車両の配車・運行管理
■警護関連	茨城県警察	適宜	○会場内・外の要人警護
■進行·運営業務	JТВ	2名	○進行·運営業務、会場内来場者誘導等
■備品手配	JТВ	2名	○国旗手配 等
■記録(スチール)	JТВ	4名	○記録スチールの撮影
■会場運営手配·管理	オークラフロン ティアホテルつく ば アネックス	適宜	○会場手配、飲食物手配、配膳業務等

(8) その他

会場中央奥に、日本画家 藤島 博文氏の「黄鶴ノ図」を展示

5月17日(火)

1 G7茨城・つくば科学技術大臣会合

参照 概要編 P 33

- (1) 実施主体: 内閣府
- (2) 日時: 平成28年5月17日(火) 9:00~11:30
- (3)場所:つくば国際会議場 中ホール300
- (4)議事:
 - ①セッション5 (9:00~10:00)
 - 1)議題: "Inclusive Innovation Mainstreaming Inclusiveness Among Innovation Policies" 「インクルーシブ・イノベーション 社会的に包摂的で持続可能なイノベーションの 創出 |
 - 2) ゲストスピーカー: 原山 優子 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員 モンテ・カセム スリランカ首相顧問(科学技術担当)
 - ②セッション6 (10:00~11:00)
 - 1)議題: "Open Science Entering into a New Era for Science" 「オープンサイエンス サイエンスの新たな時代の幕開け |
 - 2) ゲストスピーカー: 村山 泰啓 (国研) 情報通信研究機構 統合ビッグデータ研究センター 研究統括

林 和弘 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測セン ター 上席研究官

(5)全体総括(11:00~11:30)

2 共同記者会見

参照 概要編 P 34

- (1)実施主体:内閣府
- (2) 日時: 平成28年5月17日(火) 11:45~12:15
- (3)場所:つくば国際会議場 中ホール300
- (4)登壇者:※会見時席順(左から)

イギリス クレア・ダーキン ビジネス・イノベーション・技能省 グローバル科学・イノベーション・教育 担当局長

アメリカ ジョー・ハンデルスマン 科学技術政策局科学担当次長

EU カルロス・モエダス 研究・科学・イノベーション担当欧州委員

ドイツ ヨハンナ・ヴァンカ 教育研究大臣

日本 島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

カナダ カースティ・ダンカン 科学大臣

フランス ニコラ・マルケ 国民教育・高等教育・研究省 外交顧問

イタリア アルベルト・メンゴーニ イタリア大使館 科学技術担当アタッシェ

3 フェアウェルランチ

参照 概要編 P 35

- (1) 実施主体: 内閣府
- (2) 日時: 平成28年5月17日(火) 12:15~13:30
- (3)場所:つくば国際会議場 レストラン「エスポワール」
- (4)参加者:
 - ①各国・機関代表者

日本 島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

カナダ カースティ・ダンカン 科学大臣

フランス ドゥニ・デプレオー 国民教育・高等教育・研究省研究・イノベーション・高等教 育担当欧州国際室長

アメリカ ジョー・ハンデルスマン 科学技術政策局科学担当次長

イギリス クレア・ダーキン ビジネス・イノベーション・技能省 グローバル科学・イノベーション・教育 担当局長

EU カルロス・モエダス 研究・科学・イノベーション担当欧州委員

- ②各国・機関随行者 37名
- ③知事・市長

橋本 昌 茨城県知事(G7茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会 会長)

市原 健一 つくば市長(G7茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会 副会長)

(5)メニュー:

- ①通常メニュー
 - ・天ぷら(海老、めごち、茄子、南瓜、青唐)
 - ・焼き八寸(鳥山椒焼、玉子焼、昆布巻、卯の花和え、菜の花そば和え、酢取り茗荷)
 - ・蒸し物(鰻豆腐蒸し、あやめ麩、ヤングコーン、ミニ青梗菜)
 - ・煮物(鯛煮付、がんも、いんげん、白髪葱、木の芽)
 - ・香の物 二点盛り (らっきょう、きゅうり)
 - ご飯
 - ·味噌汁
 - ・デザート (オレンジ、イチゴ)

②グルテンフリーメニュー

- ・生野菜サラダ盛り合せ (オリーブ)
- ・野菜のあんかけ風(白菜、人参、ピーマン、竹の子、しいたけ)
- ・野菜の煮物(里芋、人参、ハス、絹さや、大根)
- ・野菜の天ぷら盛り※大豆粉使用(カボチャ、きのこ、なす、ピーマン、さつまいも)
- ・ご飯
- 野菜スープ
- ・デザート (オレンジ、イチゴ)

③ベジタリアンメニュー

- ・春雨サラダ
- ・ うぐいす豆
- ・自家製玉子焼き

資料編第1章 G7茨城・つくば科学技術大臣会合の開催

- ・花れんこん
- ・野菜のあんかけ風(白菜、人参、ピーマン、竹の子、しいたけ)
- ・野菜の煮物(里芋、人参、ハス、絹さや、大根)
- ・野菜の天ぷら盛り(カボチャ、きのこ、なす、ピーマン、さつまいも)
- ・ご飯
- ·味噌汁
- ・デザート(オレンジ、イチゴ)

(6)運営体制

業務内容	所属	人数	業務内容詳細	
■全体統括	内閣府	2名	 - ○全体管理	
■土抑机位	協議会	2名		
■制作·運営管理	JTB	2名	○全体制作·運営管理	
	内閣府	8名	○会場内でのアテンド	
■来賓対応	協議会	2名	○主催、来賓出席者対応	
	JTB	1名	○アテンド	
■警護関連	茨城県警察	適宜	○会場内・外の要人警護	
■記録(スチール)	JTB	2名	○記録スチールの撮影	
■会場運営手配·管理	つくば国際会議場 レストラン「エスポ ワール」	1名	○会場手配、飲食物手配、配膳業務等	

4 オプショナルエクスカーション

参照 概要編 P 36

(1)実施主体:協議会

(2) 日時: 平成28年5月17日(火) 13:40~15:45

(3) 視察先: CYBERDYNE(株)

(共)高エネルギー加速器研究機構(KEK)

(4)参加者:

①各国・機関代表者

日本 中西 宏典 内閣府大臣官房審議官 (科学技術・イノベーション担当)
カナダ カースティ・ダンカン 科学大臣 ※CYBERDYNE(株)のみ参加
アメリカ キャサリン・ゲージ 科学技術政策局 (OSTP) 国際科学技術政策上席顧問
イギリス クレア・ダーキン ビジネス・イノベーション・技能省 グローバル科学・イノベーション・教育 担当局長

②各国・機関随行者(日、加、米、英) 6名

③**学生リエゾン (日、加、英)** 3名

(5)運営体制:

業務内容	所属	人数	業務内容詳細
■全体統括	協議会	3名	○全体管理
■制作·運営管理	JTB	6名	○全体進行·制作·運営管理
	内閣府	8名	○エクスカーション先でのアテンド
■来賓·出席者対応	協議会	6名	○主催、来賓出席者対応
	JTB	1名	○アテンド
	内閣府	1名	
■メディア対応	協議会	8名	○メディアへの事前説明とアテンド
	JTB	1名	
■交通手配·管理	JTB	6名	○移動車両の配車・運行管理
■警護関連	茨城県警察	適宜	○移動中、会場内・外の要人警護
■斡旋·運営業務	JTB	7名	○バス斡旋・運営業務等
■施設案内·説明	各施設	適宜	
■記録(スチール)	JTB	2名	○記録スチールの撮影

5 出発

(1)各国大臣・機関代表出発日一覧: ※つくば市を出発した日

各国・機関	代表者	出発日
日本	島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)	5月17日(火)
イタリア	ステファニア・ジャンニーニ 教育・大学・研究大臣	5月17日(火)
カナダ	カースティ・ダンカン 科学大臣	5月17日(火)
フランス	ナジャット・ヴァロー=ベルカセム 国民教育・高等教育・研究大臣	5月16日(月)
アメリカ	ジョー・ハンデルスマン 科学技術政策局科学担当次長	5月17日(火)
イギリス	マーク・ウォルポート 主席科学顧問	5月17日(火)
ドイツ	ヨハンナ・ヴァンカ 教育研究大臣	5月17日(火)
EU	カルロス・モエダス 研究・科学・イノベーション担当欧州委員	5月17日(火)

(2) G 7 茨城・つくば T X 特別ラッピング列車への乗車

島尻大臣は、フェアウェルランチ後に国会対応のため急遽呼び戻されたが、この際、つくばエクスプレス「G7 茨城・つくばTX 特別ラッピング列車」に乗車した。



乗車した列車:つくば駅発13:30 区間快速 秋葉原行き

その他

11 バイ会談 (二国間会談)

参照 概要編 P 37

	日付	時間	出席者	場所
		15:30	カナダ カースティ・ダンカン 科学大臣	つくば国際会議場
		~16:00	ドイツ ヨハンナ・ヴァンカ 教育研究大臣	小会議室303
		9:00	日本 島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)	つくば国際会議場
5月16日	6⊟ ~9:15 EU	EU カルロス・モエダス 研究・科学・イノベーション 担当欧州委員	小会議室303	
	(月)	(月) 18:45 イギ	イギリス マーク・ウォルポート 主席科学顧問	オークラフロンティアホテル
	~18:55	日本 島尻 安伊子 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)	│つくば 本館カフェテラス 「カメリア」	

2 リフレッシュメント&コーヒーブレイク 参照 概要編 P 38

- (1) フリードリンクコーナー
 - ①実施主体:協議会
 - ②日時:平成28年5月15日(日) 9:30~11:30
 - ③場所:つくば国際会議場 3階ホワイエ
 - ④メニュー:
 - ・コーヒー

・グルテンフリークッキー

- 紅茶
- ・ソフトドリンク3種(トロピカーナ100%オレン ジ、グレープフルーツ及びアップル)
- (2) リフレッシュメント
 - ①実施主体:協議会
 - ②日時:平成28年5月16日(月) 9:20~9:30 平成28年5月17日(火) 8:30~9:00
 - ③場所:つくば国際会議場 3階ホワイエ
 - ④メニュー(5月16日(月))
 - ・サザコーヒー(NinetyPlus Panama Geisha Sillvia) ・ 県産品フルーツ + ジュース メロン(青肉:特選イバラキング) メロン(赤肉:プレミアムクインシー) 凍結シャインマスカット こだますいか(誘惑のひとみ) スーパーフルーツトマト ソフトドリンク3種(トロピカーナ100%オ レンジ、グレープフルーツ及びアップル) ミネラルウォーター ・さしま茶 (手もみ茶)
- ・県産品(菓子類) クルミとレーズンとライムギの固焼きパン 米ゲルを使ったロールパン プチフール マンゴープリン フランボワーズ モンブラン シーゲルトルテ クロイツカム フルーツゼリー チェリーまたは青リンゴ ラスク 半熟チーズ ワタクモ 抹茶味またはサツマイモ味 福来氷 ドライドトマト

干しいも

⑤メニュー (5月17日 (火))

・サザコーヒー(NinetyPlus Panama Geisha Sillvia)

・県産品フルーツ+ジュース

メロン (青肉:特選イバラキング) メロン (赤肉:プレミアムクインシー)

凍結シャインマスカット こだますいか (誘惑のひとみ) スーパーフルーツトマト

ソフトドリンク3種(トロピカーナ100%オレンジ、グレープフルーツ及びアップル)

ミネラルウォーター ・さしま茶(手もみ茶) ・県産品(菓子類) ミニクロワッサン フランスパン ブルーベリーパン カフェミットクレーム クラール シーゲルのチーズケーキ ショートケーキ

> ザッハトルテ ファイルヘン プレーンドーナツ 田園ロール

田園ロール マドレーヌ 干しいも

(3) コーヒーブレイク

①実施主体:協議会

②日時:平成28年5月16日(月) 15:00~15:10 平成28年5月17日(火) 11:30~11:45

③場所:つくば国際会議場 3階ホワイエ

④メニュー (5月16日 (月))

・サザコーヒー (NinetyPlus Panama Geisha Sillvia)

・県産品フルーツ+ジュース

メロン(青肉:特選イバラキング) メロン(赤肉:プレミアムクインシー)

凍結シャインマスカット こだますいか (誘惑のひとみ) スーパーフルーツトマト

ソフトドリンク3種(トロピカーナ100%オレンジ、グレープフルーツ及びアップル)

ミネラルウォーター ・さしま茶(手もみ茶) ・県産品(菓子類)

クルミとレーズンとライムギの固焼きパン

米ゲルを使ったロールパン

プチフール マンゴープリン フランボワーズ モンブラン シーゲルトルテ

クロイツカム

フルーツゼリー チェリーまたは青リンゴ

ラスク 半熟チーズ

ワタクモ 抹茶味またはサツマイモ味

福来氷 ドライドトマト 干しいも

⑤メニュー(5月17日(火))

· 県産品(菓子類) ・サザコーヒー(NinetvPlus Panama Geisha Sillvia) ミニクロワッサン ・ 県産品フルーツ + ジュース フランスパン メロン(青肉:特選イバラキング) ブルーベリーパン メロン (赤肉:プレミアムクインシー) カフェミットクレーム 凍結シャインマスカット こだますいか (誘惑のひとみ) シーゲルのチーズケーキ スーパーフルーツトマト ショートケーキ ソフトドリンク3種(トロピカーナ100%オ ザッハトルテ レンジ、グレープフルーツ及びアップル) ファイルヘン ミネラルウォーター プレーンドーナツ 田園ロール ・さしま茶 (手もみ茶) マドレーヌ 干しいも

※製造元:(株) サザコーヒー、根本園 ((有) ネモト)、キリンビバレッジ (株)、ピーターパン並木店、ウィーン菓子 シーゲル、コートダジュール本店 ((有) コートダジュール)、ピジョンポスト、パティスリーマリア、御菓子処いとう、マルダイフレッシュフーズ (株)、JA茨城旭村、JA北つくば、協和施設園芸 (協組) グループ、JA常陸

3 展示視察

参照 概要編 P 40

- (1)実施主体: 内閣府及び協議会、または協議会独自
- (2) 日時: 平成28年5月15日(日)17:30~18:50 上記の他、会合の前(宿泊先から会場入りのタイミング)や共同記者会見前の時間帯等に各国・ 機関代表者等が任意で視察を実施。

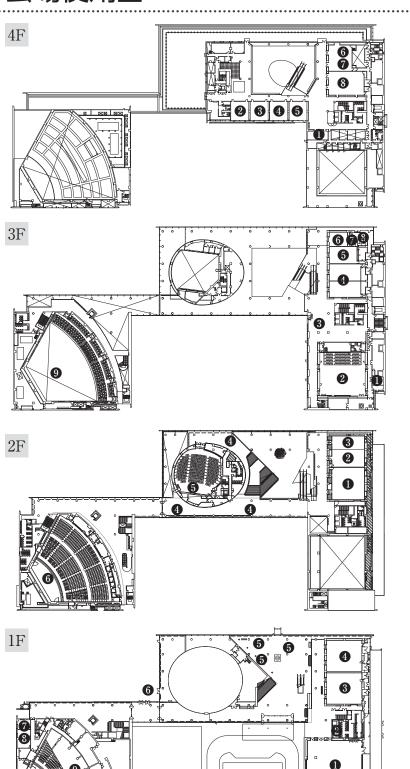
(3)運営体制

平成28年5月15日(土)-17日(火)の期間において、各出展者による説明要員と協議会関係者(県・市職員)、通訳ボランティアで見学者への対応を行った。

展示エリア	所属	5月15日(日)	5月16日(月)	5月17日(火)	
	協議会(茨城県・つくば市職員)	5名	4名	4名	
一つくば国際会議場 多目的ホール 最先端科学技術展示	通訳ボランティア	3名	2名	1名	
版元端符字技術展示 協賛企業展示	出展者	※ 53 展示			
	JTB	1名	1名	1名	
	協議会(茨城県・つくば市職員)	3名	3名	3名	
つくば国際会議場 2階通路	通訳ボランティア	2名	1名	1名	
ものづくり産業展示	出展者	※ 13 展示			
	JTB	1名	1名		
	協議会(茨城県・つくば市職員)	4名	4名	4名	
つくば国際会議場 3階ホワイエ	通訳ボランティア	2名	2名	1名	
伝統工芸展示	出展者	※ 12 展示			
	JTB	1名	1名	1名	
展示全般(連絡調整要員)	協議会(茨城県・つくば市職員)	2名	2名	2名	

※なお最先端科学技術展示設営運営においては、日本科学未来館の展示専門家にお越しいただき 助言いただいた(上表では協議会に含む)。

4 会場使用図 つくば国際会議場



$(4 \, F)$

- ●茨城県警察控室 小会議室407A
- 2フランス作業室 小会議室401
- 3カナダ作業室 小会議室402
- ●イタリア作業室 小会議室403
- 6イギリス作業室 小会議室404
- ⑥アメリカ作業室 小会議室405A
- **⑦**EU作業室 小会議室405B
- ❸ドイツ作業室 小会議室406

(3F)

- ●茨城県警察控室 控室301
- ②大臣会合・高級実務者会合・プレスカンファレンス 中ホール300
- ❸伝統工芸展示/リフレッシュメント& コーヒーブレイク ホワイエ
- 4バイ会談室 小会議室304、303
- **⑤**バイ会談室/日本デリゲーション 特別 会議室302
- 6関係者控室 小会議室301
- 7救護室 和室305
- ❸救護室(VVIP) 和室306
- 9シンポジウム 大ホール

(2F)

- ●メディアセンター 中会議室202
- ❷メディアセンター 中会議室201B
- 3関係者控室 中会議室201A
- 4ものづくり産業展示 2階通路5関係者控室 中ホール200
- 6シンポジウム 大ホール

(1F)

- ●最先端科学技術展示/協賛企業展示 多目的ホール
- ❷展示事務局 控室101
- ③国/協議会/委託会社事務室/危機管理本部 大会議室102
- **⑤**最先端科学技術展示/伝統工芸展示エントランスホール
- ⑥各国大臣控室(シンポジウム開始前) レストラン「エスポワール」
- **⑦**VIP控室 H101
- ❸登壇者控室 H102-H103
- りシンポジウム 大ホール

1.2 協議会の取り組み

1 大臣会合当日の運営体制

(1)協議会の運営体制

	5月15日 (日)	5月16日 (月)	5月17日 (火)
協議会事務局員	15名	15名	15名
茨城県スタッフ	36名	2 9名	28名
つくば市スタッフ (消防含む)	3 9名	36名	3 4名
通訳ボランティア	15名	9名	7名
学生リエゾン	8名	8名	8名
インターン生	3名	3名	3名
その他(医師・看護師・東京電力)	6名	6名	6名
合計	122名	106名	101名

(2)内閣府の運営体制(参考)

	5月15日 (日)	5月16日 (月)	5月17日 (火)
内閣府	23名	2 3 名	23名
他省庁からの参加職員	3名	2 1名	16名
合計	26名	4 4 名	3 9名

(3)運営委託会社(JTB)の運営体制(参考)

	5月15日 (日)	5月16日 (月)	5月17日 (火)
JTB合計	164名	111名	107名

1)協議会の取り組み

2 つくば国際会議場における展示

参照 概要編 P 40

(1) G 7 茨城・つくば科学技術大臣会合特別展

①実施主体

内閣府及び協議会、または協議会単独

②目的

- ・大臣会合に参加する国内外の多くの会合関係者へ日本を代表する最先端科学技術の成果や最 先端の科学技術を支える茨城・つくばのものづくり産業、本県の伝統的工芸品の展示と本協 議会にご支援いただいた協賛企業 P R コーナーを設置
- ・また、大臣会合終了後に各国・機関代表者が見学した茨城・つくばの魅力を集めた展示の一端を広く県民が体験できる特別展を開催

③内容

1) 概要

名称	展示内容等		実施主体
最先端科学技術展示 【53展示】 多目的ホール エントランスホール	つくばを中心とした研究機関等の日本を代表する最先端科学技術の成果を、内閣府が設定した展示テーマ(Society5.0)に沿って展示した(展示数:53)。		内閣府、協議会
ものづくり産業展示 【13展示】 2階通路	最先端の科学技術を支える 茨城・つくばのものづくり産 業(いばらき産業大賞の受賞 企業等13社)を展示した。		
伝統工芸展示 【12展示】 エントランスホール 3階ホワイエ	本県を代表する伝統工芸を 展示(笠間焼、結城紬(実演含 む)、真壁石灯籠、桂雛等12 展示)。		協議会
協賛企業展示 【20展示】 多目的ホール	協賛企業PRコーナー	Manager Manage	

※ 協賛企業展示は、パートナー (ダイヤモンド・プラチナ・ゴールド) 様の出展数

※ ゴールドパートナー様11社はパネルのみを展示

2)展示企業一覧

ア.最先端科学技術展示

テーマ	出展機関名	展示概要
	(国研)宇宙航空研究開発機構	宇宙探査・宇宙科学への国際協働、衛星模型 等展示
宇宙・海洋	気象庁 気象庁気象研究所	地球温暖化と海洋との関係
	(国研)国立環境研究所	温室効果ガス観測技術衛星いぶき模型、広域 3次元温室効果ガス測定
	(一財) リモート・センシング技術センター	リモート・センシング技術
	(国研)海洋研究開発機構	しんかい6500 江戸っ子システム(深海テレビカメラシステム)
	(国研)産業技術総合研究所	狭所探査ロボットDIR-3
災害に 対する	(大) 筑波大学	Iruca Tact(水中で離れた場所にある物体を感じることができるデバイス)
レジリエンス	(国研)物質·材料研究機構	100年劣化しない鉄筋コンクリート
	(国研)防災科学技術研究所	実験施設模型
	国土交通省 国土地理院	高精度3次元地図、宇宙測地技術
	(国研) 産業技術総合研究所	TIAオープンイノベーション、やわらかい トランジスタ等
	J – P A R C / (共) 高エネルギー加速器研究 機構	最先端加速器科学(ビームライン、スパーク チェンバー等)
オープンサイエンス	(一社)つくば·グローバルイノベーション推 進機構	つくば国際戦略総合特区8プロジェクト
	(大)筑波大学	藻類燃料
	(国研)物質・材料研究機構	ジェットエンジン用超合金タービン模型(年間 1 億円の燃料費削減)
	(大)山形大学	有機EL
	CYBERDYNE(株)	ロボットスーツHAL®
	(国研)産業技術総合研究所	自動運転車いす、アザラシ型ロボット「パロ」
グローバル	(大)筑波大学	身体性変換スーツ「CHILDHOOD」
ヘルス	(国研)物質·材料研究機構	次世代医療材料(スマートポリマー等)
	(国研)理化学研究所	IPS細胞等
	(大)東北大学	ビッグデータ
	(国研)国際農林水産業研究センター	優良品種開発
	国土交通省 国土技術政策総合研究所	高齢化インフラ診断、I C T による建設現場 生産性革命等
農業、気候、	(国研)建築研究所	耐震技術(CLTパネル工法)
展来、XVI供、 土木等	(国研)森林総合研究所	世界初のリグニン産業
	(国研)土木研究所	環境に優しい土木技術(低炭素型コンクリート等)
	(国研)農業·食品産業技術総合研究機構	新機能シルク(光るシルク帯)、無人農作業ロボット、機能性農産物等
	(独)国際協力機構	科学技術による国際協力
その他	内閣府/文部科学省	世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)、沖縄科学技術大学院大学(OIST)等の紹介/水素自動車展示

イ.ものづくり産業展示

出展機関名	展示概要
IRDA (イルダ)	加速器・検出器、医療等に使用される関連部品開発等、先進的取り組みの紹介
先端技術研究会	医療・介護、航空宇宙、再生可能エネルギー関連の試作開発を共同で実施した事例や、各社の加工技術等の展示
新光電子(株)	電子天びん・電子はかり
(株) 高木製作所	水冷ヒートシンクペルチェユニット等
平沼産業(株)	自動滴定装置·水分測定装置·全有機炭素測定装置等
シロク	カメラ式タッチパネル、電磁誘導方式圧力分布シート
(株) H A L デザイン研究所 マーカーレス三次限動作計測システム	
おもいで写房	カメラ29台を活用した3Dスタジオ(胸像制作)
(株) ゼン	試作加工部品展示(樹脂切削加工品、金属切削加工品、3 Dプリンタ造形品)
つくばテクノロジー(株)	レーザー超音波可視化検査装置/小型 X 線検査装置
(株)三王	ハンディタイプ世界最高精度のデジタル高度計、医療用イヤホーン等
(株)Doog モビリティロボット「モビリス」	
(株)ネクステッジテクノロ ジー	タッチレス インタフェースaeroTAP (エアロタップ)紹介

ウ.伝統工芸展示

参照 概要編P38

出展機関名	展示概要
笠間焼協同組合	笠間焼
本場結城紬織物協同組合·本場結城 紬卸商協同組合	結城紬 【機織り・糸取り実演】
真壁石材協同組合	真壁石燈籠
小佐畑 孝雄	県郷土工芸品 (桂雛)
つくば市	復元木製和時計
酒井豊四郎	大穂のほうき
本橋桶店	とよさとの桶・樽
猷和(ゆうわ)会	折形 【実演】
都賀俊雄	つくば焼
渡辺木版 (渡辺和夫)	江戸木版画
カガミクリスタル	カガミクリスタル
明恒パール	淡水真珠

工.協賛企業展示

出展企業名	展示概要
<ダイヤモンドパートナー・プラチナパートナー> (株)常陽銀行、(株)筑波銀行、JAグループ茨城、関彰商事(株)、東京海上日動 火災保険(株)、東京ガス(株)、関東鉄道(株)、(株)カスミ、凸版印刷(株)	パネル、パンフレット, ポスター等
<ゴールドパートナー> ※希望した企業のみ 茨城県信用組合、日本アイ・エス・ケイ(株)、一誠商事(株)、(株)東京電機、筑波 都市整備(株)、大和ハウス工業(株)、水戸証券(株)、茨城トヨタ自動車(株)、首 都圏新都市鉄道(株)、日清食品ホールディングス(株)、ライトオン(株)	パネル

④パネル、キャプション等での使用言語

英語及び日本語によるキャプションパネルを各ブース用に主催者にて作成し、その他の展示物 については各出展機関が持込みで実施した。



キャプションパネル例

- ・タイトル(英文、和文の順)…機関名 o r プログラム名
- ・説明文(英文、和文の順)
- · 図

当日配布物





リーフレット (代表団、プレス向け) 表紙 リーフレット (代表団、プレス向け) 裏裏紙



会場マップ (代表団、プレス、シンポジウム参加者向け) 表



リーフレット (代表団、プレス向け) 裏裏紙

17協議会の取り組み

⑤搬入出

搬入用に会場付帯駐車場(南駐車場)と近隣公共施設(文部科学省研究交流センター)を借用 し、計画的な搬入出作業を実施した。

1)搬入 (エレベーター使用階から優先的に搬入時間割り当て)

搬入/設営	5月12日 (木)	5月13日(金)
最先端科学技術展示 協賛企業展示 伝統工芸展示の一部 (多目的ホール、エントランス)	14:00~20:45 搬入時間	8:00~20:45 搬入時間
ものづくり産業展示 伝統工芸展示の一部 (2階通路、ホワイエ)	12:00~20:45 搬入時間	加入时间

2) 搬出 (展示の一部は会合終了後一般公開のため搬出日が異なる)

搬出/撤収	5月17日 (火)	5月21日 (土)
最先端科学技術展示の一部 伝統工芸展示の一部 (エントランスホールのみ)	13:00~20:45	16:00~19:00
ものづくり産業展示 伝統工芸展示の一部 (2階通路、ホワイエ)	搬出時間	搬出時間

(2)装花

①実施主体

協議会

②場所

つくば国際会議場 エントランスホール

③制作

茨城県華道連合会

4)規模

約6メートル×6メートル

3 参加者への記念品

参照 概要編 P 44

(1)各国大臣・機関代表者への記念品

準備主体	品名	概要
内閣府	 上平 梅径 筆セット	島尻大臣から各国・機関代表への記念品 (硯 "羅紋硯"、硯箱 "南天"、小筆、大筆、文鎮、墨、墨液、半紙セット、 下敷き、青霄バッグ、上平 梅径揮毫ガラス作品)
内閣府	 江戸切子 ぐいのみ (カガミクリスタル)	島尻大臣から各国・機関代表への記念品 5月16日(月)の晩餐会において乾杯に使用 (菊花(紫)と桜(ピンク)の2個セット)
内閣府	レンチキュラー名刺 ※注)	島尻大臣から各国機関代表への記念品
内閣府	鳴子こけしワインボトル栓 (HANDECO)	島尻大臣からバイ会談先への記念品
協議会	笠間焼 銀彩一輪挿し (寺本 守作)	橋本知事から各国・機関代表への記念品
協議会	淡水真珠ネックレス (明恒パール)	橋本知事から各国・機関代表への記念品
協議会	つくば市オリジナル木版画「虹立つ筑波」(藤島 博文作)	市原市長から各国・機関代表への記念品

※注)レンチキュラーレンズを使用し、角度によって異なる画像が見える名刺。氏名等を日本語と英語で表記した

(2) その他のグッズ等

準備主体	品名	概要	配布先等
内閣府 協議会	コングレスバッグ	G7茨城・つくば科学技術大臣会合のロゴを配したコングレスバッグ (代表用:ブラック、随行者用:カーキ) ※協議会より、つくば市にある鞄工場「須田頒布」のバッグを提案し、採用された	各国・機関代表及び随行者
内閣府	コングレスバッグ (その他随行者用)	G7茨城・つくば科学技術大臣会合のロゴを配したその他随行者用コングレスバッグ	その他随行者
内閣府	プレスバッグ	G7茨城・つくば科学技術大臣会合のロゴを配 したプレス用バッグ	報道関係者
協議会	コースター・ペントレー	G 7 茨城・つくば科学技術大臣会合のロゴを焼き付けた茨城県産材檜を使用したコースター及びペントレー	各国・機関代表及び随行者
協議会	付箋・クリアファイル	G 7 茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会 のロゴを配した付箋・クリアファイル	各国・機関代表及び随行者 シンポジウム来場者
協議会	マスキングテープ	つくば市にちなんだイラストを配したオリジ ナルマスキングテープ	各国・機関代表及び随行者 報道関係者
協議会	升	G 7 茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会のロゴを焼き付けた茨城県産材檜を使用した升 5月15日(日)の歓迎レセプションにおいて乾杯に使用	各国・機関代表 歓迎レセプション参加者
協議会	笠間焼 猪口	歓迎レセプション参加者のうち、希望者に専用 の巾着に入れてプレゼント	歓迎レセプション参加者

1.2 協議会の取り組み

4 コングレスバッグ・プレスバッグ

(1) コングレスバッグ

①配布物

準備主体	タイトル・品名	内容
内閣府 協議会	コングレスバッグ	須田帆布「がんがんブラザー」 大臣: ブラック、随行者: カーキ
内閣府	We Are Tomodachi	日本政府国際広報誌
内閣府	A B E N O M I C S I S P R O G R E S S I N G	経済政策「アベノミクス」のパンフレット
内閣府	伊勢志摩サミット[世界に届けたい日本]フォ トコンテスト写真集	
内閣府	記念品	クリアファイル、メモパット
内閣府 協議会	G 7 茨城・つくば科学技術大臣会合特別展プログラム	
内閣府 協議会	G 7 茨城・つくば科学技術大臣会合特別展フロアマップ	
協議会	The Basics of Ibaraki	茨城県紹介パンフレット
協議会	IBARAKI	茨城県紹介誌
協議会	IBARAKI SIGHTSEEING GUIDE	茨城県観光情報誌
協議会	TSUKUBA PR BOOK	つくば市紹介誌
協議会	TSUKUBA SCIENCECITY	筑波研究学園都市紹介誌
協議会	Outlook IBARAKI	海外向け茨城県 PR 映像
協議会	記念グッズ	クリアファイル、マスキングテープ、付箋
協議会	須田帆布パンフレット	コングレスバック紹介パンフレット

②配布対象

各国・機関代表及び随行者

(2)プレスバッグ

①配布物

準備主体	タイトル・品名	内容
内閣府	プレスバッグ	
内閣府	We Are Tomodachi	日本政府国際広報誌
内閣府	ABENOMICSIS PROGRESS ING	経済政策「アベノミクス」のパンフレット
内閣府	伊勢志摩サミット「世界に届けたい日本」フォ トコンテスト写真集	
協議会	観光パンフレットセット	茨城県の観光関係のパンフレットをまとめた セット
協議会	Portraits of Science City TSUKUBA	海外向けつくば市 PR 映像

②配布対象

報道関係者

5 ボランティア、学生リエゾン、インターン生の活躍

参照 概要編 P 47

(1) 通訳ボランティア

①実施主体:協議会

茨城県国際交流協会・つくば市国際交流協会に登録している通訳ボランティア23名に応募いただき、最先端科学技術やものづくり、伝統工芸を展示したブースや、歓迎レセプション、コーヒーブレイクといった場面で活躍していただいた。また、事前オリエンテーションを平成28年5月7日(土)、10日(火)に実施。

②通訳ボランティアの主な活動

区分	主な活動内容	5月14日 (土)	5月15日 (日)	5月16日 (月)	5月17日 (火)
展示ブース	最先端科学技術・ものづく り・伝統工芸の展示にて説明 補助を行う。	8名	8名	6名	3名
コーヒーブレイク	サザコーヒー・さしま茶・県 産フルーツやお菓子の説明 補助を行う。	-	-	3名	3名
歓迎レセプション	歓迎レセプションにて、県産 食材を使った料理や、お酒の 説明補助を行う。	-	1 0名 (*)	-	-

(※) 展示ブース ボランティアと一部重複

③オリエンテーション (参加日選択)

下記日程で、オリエンテーションを行った。

日時:平成28年5月7日(土) 13:00~15:00

場所:つくば市役所 防災会議室

人数: 20名

日時:平成28年5月10日(火) 13:00~15:00

場所: 文部科学省研究交流センター 第1会議室

人数:3名

④備考

ボランティアに参加していただいたお礼として、オリジナルマスキングテープを贈呈した。

1)協議会の取り組み

(2)学生リエゾン

各国・機関代表者のアテンド役として、筑波大学へ各国1名ずつ学生の派遣を要請。日本、ドイツ、イタリア、アメリカ、イギリス、フランス、EU (スペイン人学生) 出身の学生が各国大臣のアテンド役として活躍した。また、事前オリエンテーションを5月13日(金)に実施。

①実施主体:協議会

②学生リエゾンが活躍した主な場面

5月15日(日)	・各国大臣のお出迎え・シンポジウム会場や、バイ会談会場への案内補助・展示ブースの案内補助・歓迎レセプション
5月16日(月)	・晩餐会前のウェルカムドリンクで各国大臣をお出迎え ・晩餐会終了後のお見送り
5月17日(火)	・オプショナルエクスカーションの案内補助・各国大臣のお見送り

③服装

学生リエゾンの服装は、国際会議に相応しい、フォーマルな服装。

④オリエンテーション

日時:平成28年5月13日(金)17:00~18:30

場所:文部科学省研究交流センター 第1会議室

つくば国際会議場

参加者:筑波大学学生7名(1名欠席)

引率1名

⑤備考

各国大臣と記念撮影した写真を使った オリジナル図書カードを作製し、贈呈した。



(3)インターン生

大学でコンベンション論を受講する学生をインターンとして受け入れた。

①実施主体:協議会

②**受入人数**: 3名 (東洋大学) ③インターン生の主な活動

> ・ポスター掲示等の事前準備 5月13日(金) -5月17日(火) ・協議会事務局員の業務補助 ・メディアセンターの管理、各取材場所への誘導補助 ・記録写真の撮影

6 宿泊

内閣府の宿泊業務が円滑に進むよう、市内宿泊施設との連絡調整等を行った。

(1)協議会による支援内容

①市内宿泊施設との連絡調整

内閣府の意向及び決定事項の連絡等

- ②市内宿泊施設からの各種情報収集
- ③内閣府への情報提供等

スイートルームを有する市内宿泊施設の情報提供 宿泊施設のWi-Fi整備状況の情報提供 宿泊施設の視察調整 宿泊施設の価格情報の提供等

(2)会合参加者等の宿泊施設

属性	宿泊ホテル		
各国代表団	オークラフロンティアホテルつくば	本館、アネックス、エポカル	
ゲストスピーカー(シンポジウム)	オークラフロンティアホテルつくば ホテルグランド東雲 筑波山ホテル青木屋 筑波山江戸屋	エポカル	
ゲストスピーカー(大臣会合)	オークラフロンティアホテルつくば ホテルグランド東雲	本館、エポカル	
事務局(内閣府、協議会)	オークラフロンティアホテルつくば (一部は本館、アネックスに宿泊)	エポカル	

7 輸送

大臣会合参加者の移動を円滑に行うため、内閣府の要請により、または独自に各種支援を行った。

- (1)協議会による支援内容
 - ①大臣車ドライバーの選定及び情報提供

茨城県ハイヤー・タクシー協会を通じた優良ドライバーの選定及び内閣府への情報提供

②移動式水素ステーションの整備 (参考情報)

平成28年3月25日(金)、JXエネルギー(株が旧つくば市消防本部跡地に移動式水素ステーションを開所した。

- (2)運行車両(参考情報)
 - ①各国・機関代表団用車両 (運行主体:内閣府)
 - •**運行日**: 平成28年5月15日(日) 5月17日(火)
 - ・大臣用車両: セダン (燃料電池自動車MIRAI トヨタ自動車 (株)) 各代表団につき1台 ※一部各国手配の公用車利用
 - •**随行員用車両:**ワゴン 各代表団に1台~2台
 - ②その他車両
 - ・シンポジウム参加者の輸送車両(運行主体:内閣府・協議会) 大型バス 14台(5月15日(日))
 - ・レセプション参加者の輸送車両(運行主体:内閣府・協議会) 中型バス 2台(5月15日(日)) 大型バス 6台(5月15日(日))
 - ・メディア向けツアーの輸送車両(運行主体:協議会) 大型バス 1台(5月16日(月))
 - ・大臣向けエクスカーションの輸送車両(運行主体:内閣府) 大型バス 1台(5月16日(月))、中型バス1台 ※本エクスカーションに伴うメディア用輸送車両…大型バス1台
 - ・オプショナルエクスカーションの輸送車両(運行主体:協議会) 中型バス 1台(5月17日(火)) ※本エクスカーションに伴うメディア用輸送車両…大型バス1台

8 危機管理

(1)会場警備その他

- ・大臣会合期間中の会場自主警備は内閣府が実施
- ・開催決定当初から、茨城県警察本部との連絡調整を実施
- ・茨城県警察本部はVIP等要人警護を主に担当
- ・協議会主催の事前イベント等の情報を茨城県警察本部に提供

(2)会期中の危機管理体制

G7 茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会に茨城県及びつくば市の関係各課で構成される「危機管理プロジェクトチーム」を設置し、会期中の危機管理体制及び連絡体制を整備した。

- ①実施主体:協議会、茨城県、つくば市
- ②消防体制

1)つくば市消防本部

- a G7専任隊 (初動隊) の配置 (5月15日 (日) -5月17日 (火))
- · 救急隊 2隊 · 消火隊 1隊 · 特殊災害対応隊 2隊(中央署)

b 連絡体制の整備

本部名(構成員)	設置時間 (設置場所)	役割
消防特別警戒本部 (消防長、本部担当次長、各課長等の8名体制)	5月15日(日) -5月17日(火) (消防本部内)	・複数の署に跨る事案の統括指 揮等 ・県内応援隊等の応援要請
大隊本部 (中央・北・南署の署、副署長等の各2名体制)	5月15日(日) -5月17日(火) (中央・北・南署)	各会場での災害等発生時にお ける部隊編成、現地指揮
現地消防特別警戒本部 (署担当次長、警防課長補佐等の4名体制)	5月15日(日) -5月17日(火) (つくば国際会議場)	現地での情報収集、係機関との 情報共有

※G7専任救急隊の一部は会場に配置するとともに、エクスカーション時の大臣バスに随行。

2) その他

・大規模災害等発生時の、県内応援隊、緊急消防援助隊要請のための待機

所属名	対応者等 役割	
消防庁	平日昼間:広域応援室 休日·夜間:宿直室	緊急消防援助隊の調整窓口
茨城県消防安全課	平日昼間:消防安全課 休日·夜間:宿日直者2名 緊急消防援助隊の派遣	
水戸市消防本部	消防救助課2名	県内応援隊等の調整支援
日立市消防本部	警防課2名 県内応援隊等の調整支援	

③医療救護

1)つくば国際会議場への救護所の設置

日時	担当者	
5月15日(日)	筑波メディカルセンター病院 医師1名 筑波大学附属病院 看護師1名 つくば市健康増進課員(連絡員) 2名	
5月16日(月)	筑波大学附属病院 医師 1 名, 看護師 1 名 つくば市健康増進課員(連絡員) 2名	
筑波メディカルセンター病院 医師 1 名 5月17日(火) 筑波大学附属病院 看護師 1 名 つくば市健康増進課員(連絡員) 2名		

※医師及び看護師は英会話が可能

2) 救急患者受入れ先医療機関

a 代表団向け

以下の医療機関に、空きベッドを各1床確保

- ・筑波メディカルセンター病院
- · 筑波大学附属病院

※確保期間は5月14日(土)-5月17日(火)13:00まで。

b その他参加者向け

つくば市消防本部の救急搬送を多く受け入れている,以下の10病院に事前情報提供を行い, 受入れへの協力を依頼。

筑波学園病院、筑波記念病院、牛久愛和総合病院、浦協同病院、いちはら病院、つくば双愛病院、つくばセントラル病院、東京医科大学茨城医療センター、 霞ヶ浦医療センター、JAとりで総合医療センター

④大規模災害対策

1)つくば国際会議場への現地調整員の派遣

a 派遣日

5月14日(土)-5月17日(火)(4日間)

b 派遣者

- ・茨城県防災・危機管理課 2名
- · 茨城県消防安全課 2名
- ・つくば市危機管理課 3名

※つくば市消防本部・医師等と同じ区画に待機

c 主な役割

- ・救急、救助、火災、自然災害、事故等に係る情報収集、本庁への報告
- ・ライフライン(電気、ガス、水道、道路、通信回線)断絶時の各関係者への対応依頼、 結果確認、本庁への報告

2) 本庁待機員の待機

a 待機日

5月14日(土)-5月17日(火)(※24時間体制)

b 待機者、待機場所

所属	時間帯	対応者	待機場所
茨城県防災・危機管理課	平日昼間	各課担当者	各課執務室内
茨城県消防安全課	上記以外	宿日直者(2名)	防災·危機管理課執務室内
つくば市危機管理課	平日昼間	危機管理課担当者	危機管理課執務室内
ノへは川厄城官珪誌	上記以外	危機管理課担当者(2名)	自宅

c 主な役割

- ・現地調整員, 関係機関からの情報収集, 連絡調整
- ・応援職員の招集
- ・災害対策本部の立ち上げ準備等

⑤インフラ復旧対策

各会場において電気、ガス、上下水道、道路、通信回線が使用不能となった場合に備え、各所属の対応要員が待機し、万が一の際に復旧対応を実施。

対応事案	対応所属	対応日時
停電時の復旧対応 (電源車による応急送電)	・東京電力(株) 土浦支社	常時 (電源車は会議場での会合時間帯の み)
ガス停止時の復旧対応	・東京ガス(株) つくば支社	常時
(会食会場のみ)	·白井石油(株)	つくば山水亭での会食時間帯前後
断水時の復旧対応	・茨城県企業局 ・つくば市水道工務課等	常時
下水管の不具合対応 (閉塞等)	・茨城県下水道課 ・つくば下水道管理課	常時
道路の破損,落下物対応	・茨城県道路維持課 ・つくば市道路維持課	常時
通信回線の復旧対応 ・固定電話(FAX) ・Wi-Fi ・携帯電話	・茨城県情報政策課・東日本電信電話(株) 茨城支店・(株) N T T ドコモ 茨城支店・ソフトバンク(株)・K D D I (株)	
会議場のエネルギー安定供給	·筑波都市整備(株)	

⑥警備体制

1)人員

最大時約1,500名を動員

2)主な役割

- ・つくば国際会議場、関連施設及び周辺地域の警戒警備
- ・ 国内外要人の身辺の安全確保
- ・ 会場周辺道路の交通規制等

1)協議会の取り組み

9 報道機関への対応

(1)取材対応

①実施主体:内閣府(協議会は内閣府の支援) ②取材方法:指定した機会・場所での取材

(2)取材対象行事

①メディア向け展示内覧会

日時:平成28年5月14日(土)13:00~15:30

場所:つくば国際会議場 多目的ホール、2階通路、3階ホワイエ

②G7開催記念シンポジウム

日時:平成28年5月15日(日)13:30~17:30

場所:つくば国際会議場 大ホール

③展示視察(各国大臣)

日時:平成28年5月15日(日)17:50~18:30

場所:つくば国際会議場 多目的ホール

④島尻大臣ぶら下がり取材

日時:平成28年5月15日(日)18:30~18:40

場所:つくば国際会議場 多目的ホール前

⑤歓迎レセプション(あいさつ、鏡開き、乾杯)

日時:平成28年5月15日(日)19:00~冒頭のみ

場所:ホテルグランド東雲 東雲の間

⑥大臣会合(冒頭あいさつ、地元小学生による花束贈呈)

日時:平成28年5月16日(月)9:40~冒頭のみ

場所:つくば国際会議場 中ホール300

⑦オフィシャルランチ (画像・映像配信のみ)

日時:平成28年5月16日(月)12:50~13:50

場所:つくば山水亭

⑧メディア向けツアー

日時:平成28年5月16日(月)11:15~14:35

場所: (国研) 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 筑波宇宙センター、つくば市立竹園東小学校、 (株) フジキンつくば先端事業所

⑨島尻大臣ぶら下がり会見

⊟時:平成28年5月16日(月)15:00~15:10

場所:つくば国際会議場 小会議室303

⑩フォトセッション

⊟時:平成28年5月16日 (月) 15:10~15:15

場所:つくば国際会議場 エントランスホール

資料編 第1章 G7 茨城・つくば科学技術大臣会合の開催

⑪大臣向けエクスカーション

日時:平成28年5月16日(月)15:15~18:30

場所: (国研) 産業技術総合研究所(AIST)、(国研)物質・材料研究機構(NIMS)、(一財) 日本自動車研究所(JARI)

①晩餐会(冒頭あいさつ、集合写真)

日時:平成28年5月16日(月)19:00~冒頭のみ

場所:オークラフロンティアホテルつくば アネックス 昴 東の間

③コーヒーブレイク

日時:平成28年5月17日(火)11:30~11:45

場所:つくば国際会議場 3階ホワイエ

(4)島尻大臣ぶら下がり会見

日時:平成28年5月17日(火)11:30~11:45

場所:つくば国際会議場 小会議室303

⑤プレスカンファレンス

日時:平成28年5月17日(火)11:45~12:15

場所:つくば国際会議場 中ホール300

16知事・市長ぶら下がり会見

日時:平成28年5月17日(火)13:10~13:20

場所:つくば国際会議場 多目的ホール前

⑰オプショナルエクスカーション

日時:平成28年5月17日(火)13:15~15:55

場所:CYBERDYNE (株)、(共) 高エネルギー加速器研究機構(KEK)

1)協議会の取り組み

(3)メディアセンター

①設置主体:内閣府

②期間:平成28年5月14日(土)-5月17日(火)③場所:つくば国際会議場 中会議室202、201B④利用者:22社130名(うち海外メディア1社1名)

<メディア一覧>

No.	社名
1	NHK
2	日本テレビ
3	フジテレビ
4	テレビ朝日
5	読売新聞
6	朝日新聞
7	毎日新聞
8	産経新聞
9	東京新聞
10	茨城新聞
11	常陽新聞
12	日本経済新聞
13	日刊工業新聞
14	科学新聞
15	ジャパンタイムズ
16	共同通信社
17	時事通信社
18	ガンマ通信社 ※海外メディア
19	化学工業日報社
20	茨城放送
21	ACCS
22	筑波大学新聞部

⑤設備

- ・インターネット回線 (無線・有線)
- 無線アクセスポイント
- ·複合機2台
- · P C (出力用) 2台
- ・ホワイトボード
- ・その他諸室備品類

⑥飲食物の提供

・カップヌードル 提供元:日清食品ホールディングス(株)

・いばらきの名水 (ペットボトル水) 提供元: 茨城県企業局

資料編 第1章 G7 茨城・つくば科学技術大臣会合の開催

(4)報道バスの運行

①実施主体:内閣府、協議会

②期間:平成28年5月15日(日)-5月17日(火)

③運行区間

1)平成28年5月15日(日)

つくば国際会議場~ホテルグランド東雲(レセプション会場)~つくば国際会議場

2) 平成 2 8 年 5 月 1 6 日 (月)

つくば国際会議場~大臣向けエクスカーション ((国研) 産業技術総合研究所→ (国研) 物質・ 材料研究機構→ (一財) 日本自動車研究所) ~つくば国際会議場~オークラフロンティアホ テルつくば 本館

3) 平成 28年5月17日 (火)

つくば国際会議場~オプショナルエクスカーション(CYBERDYNE株) → (共) 高エネルギー加速器研究機構(KEK))~オークラフロンティアホテルつくば本館

(5)メディア向けツアー

参照 概要編 P 50

①実施主体:協議会

②日時:平成28年5月16日(月)10:50~14:20

③視察先:

(国研) 宇宙航空研究開発機構 筑波宇宙センター

つくば市立竹園東小学校

(株)フジキンつくば先端事業所

④参加者:8社13名(うち海外メディア1社1名)

⑤実施体制

業務内容	所属	人数	業務内容詳細
■制作・運営管理	JТВ	6名	○全体進行・制作・運営管理
	内閣府	1名	
■メディア対応	協議会	10名	○メディアへの事前説明とアテンド
	JТВ	1名	
■交通手配、管理	JТВ	6名	○移動車両の手配・管理・運営
■進行·運営業務	JTB	7名	○進行·運営業務等
■施設案内·説明	各施設	適宜	○館内案内・研究内容説明等
■記録(スチール)	協議会	1名	○スチールの撮影
	JTB	1名	○人ナールの徴象